

神田東後遺跡

(大阪府寝屋川市)

——寝屋川市立西南地区公民館建設に伴う発掘調査
概要報告書——

1 9 8 9 • 3

寝屋川市教育委員会

神田東後遺跡

(大阪府寝屋川市)

——寝屋川市立西南地区公民館建設に伴う発掘調査
概要報告書——

1 9 8 9 • 3

寝屋川市教育委員会

序 文

本市の神田地区は、古来茨田郡に属し、もとの九個荘のうちで神田村のことをさし、上・中・下の三地区にわかれています。

『寝屋川市誌』によりますと、「神田は神社所属の田を意味するが、史上には見あたらぬいもののどこかの神社の所領となっていたものと思われる」と記されています。

また、明治40年3月から43年5月まで行われた耕地整理は、北河内郡内で最初の耕地整理事業として注目をあびました。この耕地整理により、土地の高低がなくなつて農作業の効率が良くなり、道路や水路が整備されたことによって神田地区の発展の基礎となりました。

このたびの埋蔵文化財発掘調査は、市民の連帯感を深め、社会活動の拠点となるセンターとしての市立西南地区公民館の建設に先立って行ったものであります。

遺跡は新発見遺跡であり、当該場所の旧大字・小字名を冠して「神田東後（かみだひがしご）遺跡」と名付けました。

遺跡から出土した土器等の遺物や遺構から、平安時代中頃の10世紀初頭を中心とした集落の一部であることが判明しました。

今回の調査により、不明な部分の多い神田地区の古代史を解明するうえにおいては勿論のこと、寝屋川市の歴史を考えるうえにおいても重要な発見となりましたことは大きな収穫であったと思われます。

この報告書は、発掘調査の概要をまとめたものであります。本書が郷土の歴史と文化を明らかにする一助となり、文化財に対する理解を深める基礎資料となれば望外の喜びであります。

なお、今回の調査にあたり、ご協力をいただきました関係各位にはお礼を申し上げますとともに、調査や資料整理に従事していただきました多くのみなさまに対し、深く感謝の意を表する次第です。

平成元年3月

寝屋川市教育委員会

教育長 山田勝久

例　　言

1. 本書は、寝屋川市教育委員会が計画した市立西南地区公民館新築工事に伴う寝屋川市上神田1丁目57-1他所在の神田東後（かみだひがしご）遺跡の発掘調査概要報告書である。
2. 調査は、昭和62年6月から同年9月まで現地調査を実施し、昭和63年1月から同年3月までの間遺物整理を実施した。
3. 調査は、寝屋川市教育委員会社会教育課・塩山則之が担当した。
4. 本書の作成については、第1章・第2章・第3章は塩山が執筆し、第6章は川畠聰・塩山が執筆し、第4章は川畠聰が執筆して塩山がこれを補佐した。又、第5章は全補助員が作成した。実測及びト雷斯については、遺物整理補助員の中原初美・鶴林斉享・川畠聰・露口真広・村田幸子があたり、写真撮影は塩山・露口がそれぞれ行った。
5. 発掘調査の進行及び報告書作成にあたり次の各氏、各機関から御指導、御教示を得た。記して謝意を表する。

赤井銳夫氏・近藤農氏・瀬川芳則氏・三島利三氏・山下勇氏（以上寝屋川市文化財保護審議会）、植田正幸氏（守口市教育委員会）、片岡修氏（米国オレゴン大学助手）、中司久美子氏（大手前女子大学学生）、野島稔氏（四条畷市立歴史民俗資料館）、橋本久和氏（高槻市立埋蔵文化財調査センター）、浜田幸司氏（大阪教育大学大学院生）、藤井直正氏（大手前女子大学）、前川要氏（大手前女子大学）、増崎勝敏氏（大阪府立南寝屋川高校教諭）、百瀬正恒氏（勧京都市埋蔵文化財研究所）、中世土器研究会の諸氏、鶴枚方市文化財研究調査会の諸氏。（五十音順）

6. 発掘調査の実施にあたっては、神田自治会・寝屋川消防署神田出張所・地元各位・寝屋川市土地開発公社の協力を得た。記して厚く感謝の意を表する。

本 文 目 次

序 文

例 言

第1章 調査に至る経過	1
第2章 遺跡の位置と歴史的環境	3
第3章 調査の概要	6
第4章 出土遺物	12
第5章 遺物観察表	20
第6章 まとめ	34

図 版

挿図目次

挿図1	調査地位置図	2
挿図2	神田東後遺跡周辺遺跡分布図	4
挿図3	調査区断面図（東側断面・西側断面）	7～8
挿図4	調査区断面図（南側断面・北側断面）	9～10
挿図5	遺物実測図（用途不明石器）	18

図版目次

図版1	遺物実測図（黒色土器一杯B）	39
図版2	遺物実測図（黒色土器一杯B）	41
図版3	遺物実測図（黒色土器一杯B・椀・耳皿・皿・鉢・小鉢・壺）	43
図版4	遺物実測図（十師器一杯A）	45
図版5	遺物実測図（十師器一杯A）	47
図版6	遺物実測図（土師器一杯A）	49
図版7	遺物実測図（土師器一杯A・杯B・皿・小皿）	51
図版8	遺物実測図（土師器一壺・羽釜・鉢・須恵器一壺・椀）	53
図版9	遺物実測図（須恵器一長胴甕・双耳甕・壺）	55
図版10	遺物実測図（緑釉陶器一椀・耳皿・小杯・小皿・皿・灰釉陶器一瓶子・椀・瓶・長頸瓶・手付瓶・短頸壺）	57
図版11	遺物実測図（石器・古墳時代・中世の遺物）	59
図版12	遺跡航空写真	61
図版13	遺構写真	63
図版14	遺構写真	65
図版15	遺構写真	67
図版16	遺構写真	69
図版17	黒色土器（杯B）	71
図版18	黒色土器（杯B）	73
図版19	黒色土器（杯B）	75
図版20	黒色土器（杯B）	77
図版21	黒色土器（耳皿・皿・鉢・小鉢・壺）	79

図版22 黒色土器（碗・皿・鉢・甕・小鉢）	81
図版23 土師器（杯A）	83
図版24 土師器（杯A）	85
図版25 土師器（杯A）	87
図版26 土師器（杯A）	89
図版27 土師器（杯A）	91
図版28 上帥器（杯A）	93
図版29 上帥器（杯A）	95
図版30 上帥器（杯A・杯B）	97
図版31 土師器（皿A・小皿）	99
図版32 土師器（甕・羽釜・鉢・小皿・須恵器（杯蓋・壺）	101
図版33 須恵器（壺・椀・長胴甕・双耳壺・甕）	103
図版34 緑釉陶器・灰釉陶器	105
図版35 緑釉陶器・灰釉陶器	107
図版36 古墳時代・古代・中世の遺物	109
図版37 土鍤・石器類・見学風景	111

第1章 調査に至る経過

神田東後遺跡は、寝屋川市上神田1丁目57-1、58-1の一部（小字名神田東後）において新たに発見された遺跡である。

從来この地域の考古学的調査はまったく行われておらず、遺跡・遺物等の事項については『寝屋川市誌』に「神田は神社所属の田を意味する。今のところ史上には見当たらないようであるが、どこかの神社の所領となっていたものと思われる。村界に近く延喜式内の堤根神社があり、その付近で発掘された平安時代の土器と同じような土器が当地区内からも出ていることは、その間になんらかの関連がありそうである。」と記述されているだけであり、空白地帯に近い状況であった。その中にあって、考古資料ではないけれども、今回の調査地より約400m西に鎮座する神田天満宮の境内にある「くすの木」は、大阪府の天然記念物に指定され（昭和47年3月31日付指定）、『寝屋川八景』の1つにも選ばれ市内第一の名木に上げられるほど有名である。この「くすの木」が樹齢約1,000年と云われている。

昭和62年（1987）1月、当地に仮称市立西南地区公民館の建設が計画され、教育委員会では協議の上、遺跡の存在は知られていないけれども、存在の有無を確認するため事前の試掘調査を実施することを決定した。

試掘調査は、昭和62年（1987）5月に開発予定地（1,983m²）に4ヶ所のトレンチ（試掘坑）を掘り実施した。

試掘調査の結果、現地表下約60cmで地山面に至り、地山面において小溝・ビットを検出した。また、同時に遺物として、瓦器片・土師器片・縁釉陶器片の土器類が出土し、古代末から中世にかけての遺跡であることが確認された。

教育委員会は、試掘により発見された遺跡を新発見遺跡として早急に大阪府教育委員会を通じて文化庁に遺跡発見の通知を行った。

教育委員会は先の試掘調査の結果をふまえて、遺跡の保存について協議を重ねた。その結果、市立西南地区公民館建設工事によって遺構の破壊が予想される本体部分（約860m²）と東側擁壁部分（約71m²）について調査を実施することに決定した。

調査は、擁壁部分を昭和62年（1987）6月6日から同年6月19日まで実施し、本体部分を昭和62年（1987）7月13日から同年9月12日まで実施した。

出土遺物の洗浄・注記・復元・実測・トース等の整理作業については、昭和63年（1988）1月11日から同年3月30日までの間実施した。

註

- (1) 寝屋川市役所『寝屋川市誌』昭和41年（1965）



挿図1 調査地位置図

第2章 遺跡の位置と歴史的環境

神田東後遺跡は、大阪府寝屋川市上神田1丁目〔小字名・東後(ひがしご)〕に所在している。

寝屋川市は、大阪と京都のほぼ中間の大坂府の東北部に位置し、市の地形は東西6.89km、南北6.74km、面積24km²を測り、大きく東部の丘陵地帯と西部の平坦地帯に別けることができる。

神田東後遺跡はこの内、沖積層によって形成された西部平坦地帯に所在している。

梶山彦太郎・市原実両氏の研究によると、神田東後遺跡は、本市の市名にもなっており市内を貫流して大阪湾へ注ぐ「寝屋川」の右岸で、母なる北の河「淀川」及び「古川」の左岸に位置し、これら大小河川によって形成された自然堤防上に位置している。

本市における西部平坦地帯の考古学的な調査はその立地条件からほとんど行われておらず、遺跡の範囲及び内容はもちろん遺跡の有無さえも十分把握されていないのが現状である。

生駒山系の西側斜面から派生した広大な丘陵や段丘(枚方台地)上の遺跡数に比べ、その数は少なくなる傾向がある。このことは、茨田堤や杉子絶間の伝承に代表されるごとく、本市の西側に流れる「淀川」(水)とのたたかいの歴史であったことを物語っている。

『寝屋川市誌』に「村界に近く延喜式内の堤根神社があり、その付近で発掘された平安時代の土器と同じような土器が当地区内からも出ていることは、その間になんらかの関連がありそうである。」という記載があるものの大字神田(かみだ)の何処からどの様な遺物が出土したかは不明であった。

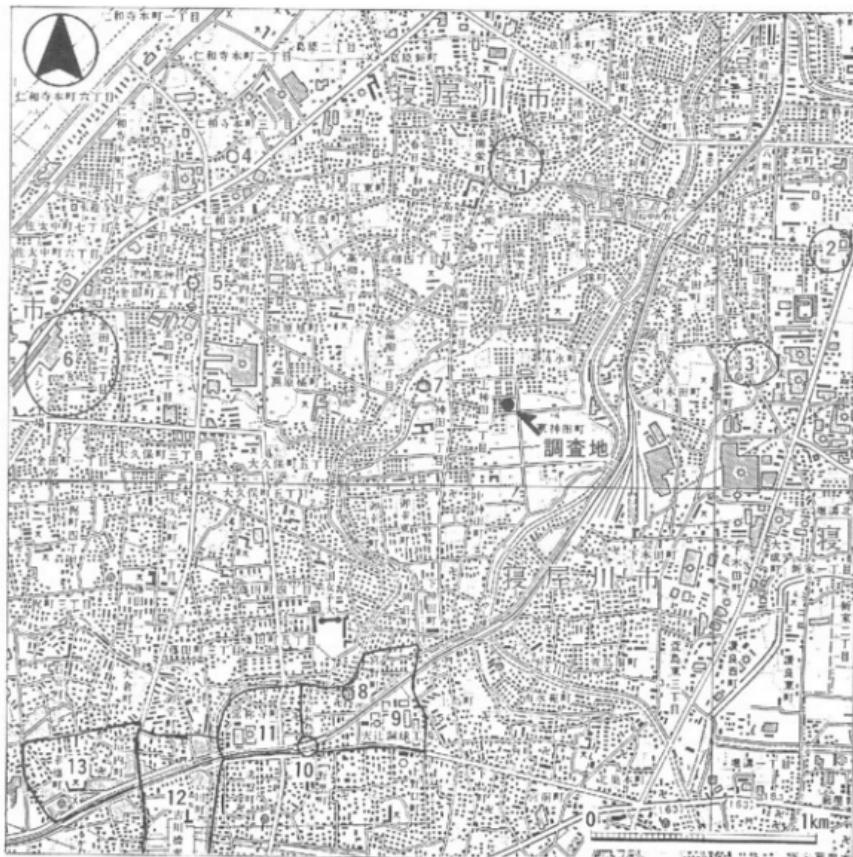
大字神田は、古来茨田郡に属し、もとの九個荘のうちで、神田庄、後の神田村にあたる。「神田」という名から、本来はどこかの神社の社領であったと考えられるけれども現在ではどこの神社の社領であったかは、古文書等の記録が無いために不明である。

近年、本市の西部平坦地帯と同様の立地条件をもつ冲積平野上で、本市と隣接する門真市や守口市域において重要な遺跡がつぎつぎと発見され、報告されている。

門真市では、昭和38年(1963)京阪電鉄の大和田駅構内の地下約2mの砂層から3口の銅鐸が出土して有名な大和田遺跡の他、伝茨田堤(府史跡)の南側堤根神社の西側で発見された古墳時代後期の宮野遺跡、弥生時代前期から中期・古墳時代後期の普賢寺遺跡、弥生時代中期以降の古川遺跡がある。一方、守口市においては、淀川河川敷から縄文時代前期・後期の深鉢形土器片や弥生土器・古墳時代の土師器が発見された八雲遺跡、この八雲遺跡は最近の調査により範囲がさらに広がりをみせ、また玉作り工房跡も発見されている。弥生土器が発見されている橋波西之町遺跡、古墳時代後期の方墳・大溝や中世の集落跡等が検出された大庭北遺跡が知られている。

この様に徐々にではあるが、最近の調査により、本市の西部平坦地域周辺の様相も明らかになりつつある。

今回新たにこの神田東後遺跡が発見されたことにより、神田地域あるいは本市の西部地域の一角の歴史ではあるが、明らかになるものと推察される。



挿図2 神田東後遺跡周辺遺跡分布図

- | | | |
|-------------------|-----------------------------|-----------|
| 1. 高柳庵寺跡
茨田親王塚 | 7. (府指定天然記念物)
神田天満宮のくすのき | 13. 善賢寺遺跡 |
| 2. 高宮八丁遺跡 | 8. (府史跡) 伝茨田堤
延喜式内社 堤根神社 | |
| 3. 長保寺遺跡 | 9. 宮野野口遺跡 | |
| 4. 観音寺跡 | 10. 大和田遺跡 | |
| 5. 延喜式内社 津嶋部神社 | 11. 常称寺遺跡 | |
| 6. 大庭北遺跡 | 12. 古川遺跡 | |

註

- (1) 梶山彦太郎・市原実『續大阪平野発達史』1985
- (2) 寝屋川市役所『寝屋川市誌』1961
- (3) 大阪府教育委員会「八震遺跡現地説明会資料」1987
西口陽一・浜田延光・津田美智子「守口市八震遺跡の調査」大阪府下埋蔵文化財研究会(16回)資料1987
- (4) 大阪府教育委員会『大庭北遺跡発掘調査概要・Ⅱ』1986
大庭北遺跡発掘調査団『大庭北遺跡』1986

第3章 調査の概要

今回発見された神田東後遺跡の所在する大字神田は、明治40年（1907）に北河内地方では最初の耕地整理事業が行われた。この為かなりの削平等があり、現地表面から平安時代中頃の遺構面までは、わずか50cm程であった。調査は、南調査区（約380m²）と北調査区（約480m²）にわけて実施した。

基本層位は、水田耕土・水田床土・暗茶褐色粘質土層となっており、水田耕土と水田床土で厚さ約30cmを測る。

遺構面は、T.P. +1.8m前後に位置している。

遺構は、南調査区ではほとんど検出せず、北調査区において頗著に認められた。検出した遺構としては、溝・柱穴・土坑・落ち込み・井戸・灰原等である。以下、各遺構の代表的なものについて概説する。

溝

北調査区において數十条の溝を検出した。

溝の幅は、10cm～1m、深さ10～30cmを測り、乱方向に掘られており一定した方向性は認められない。それぞれの溝は、相互に複雑に切り合いで行われているものの、その溝内の堆土はほぼ同一のものであり、前後関係の判明にはまだ検討が必要である。溝内からは、黒色土器〔溝110-杯B（45）、溝119-杯B（48・49）〕・上師器〔溝119-杯B（160）〕・須恵器〔溝127-双耳壺（193）〕・綠釉陶器・灰釉陶器等の遺物が出土している。

各溝内から出土するこれらの遺物の時期差はほとんど無い。

土坑

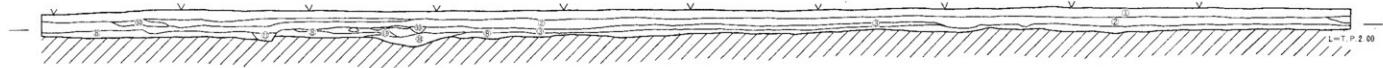
南調査区及び北調査区全体で数多くの土坑を検出した。しかし、南調査区の土坑については、形も変則で深さも数cmしかなく、内部からほとんど遺物も検出していないことなどから土坑とするには疑問の残る遺構である。

北調査区東側で検出した土坑105は、東西約2.7m、南北約2.2m、深さ約0.2mを測る、平面隅丸の不整形な方形の土坑である。内部からは、黒色土器〔杯B-（38～44）〕・上師器〔杯A-（151～155）〕・須恵器〔壺-（185）〕・瓦〔丸瓦-（236）、平瓦-（105）〕等が投棄された様な状態で出土し、同時に炭や焼土塊等も検出されている。

また、北調査区の北面隅で検出した土坑112は、今回報告した遺物の多くがこの土坑から出土している。しかし、土坑の大部分が調査対象区域外であるため規模等については不明であるが、前述の土坑105と同様に内部からは黒色土器（杯B・耳皿・皿B・鉢II・甕・小鉢）・上師器（杯A・皿A・小皿・甕・羽釜）・須恵器（長胴甕・壺）・綠釉陶器（縦椭・耳皿）・灰釉陶器（椀・瓶）・平瓦等が投棄されたような状態で多量に出土し、同時に炭や焼土塊等も検出された。また、時期は異なるが古墳時代の埴や土師器の小皿も出土している。

柱穴

北調査区の中央付近から東側にかけて約200箇所の柱穴を検出した。柱穴は、直径10～70cm、深さ



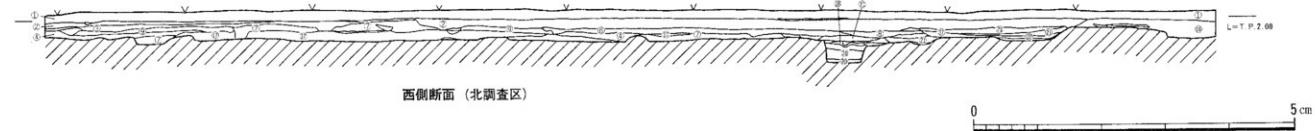
東側断面 (南調査区)



東側断面 (北調査区)



西側断面 (南調査区)

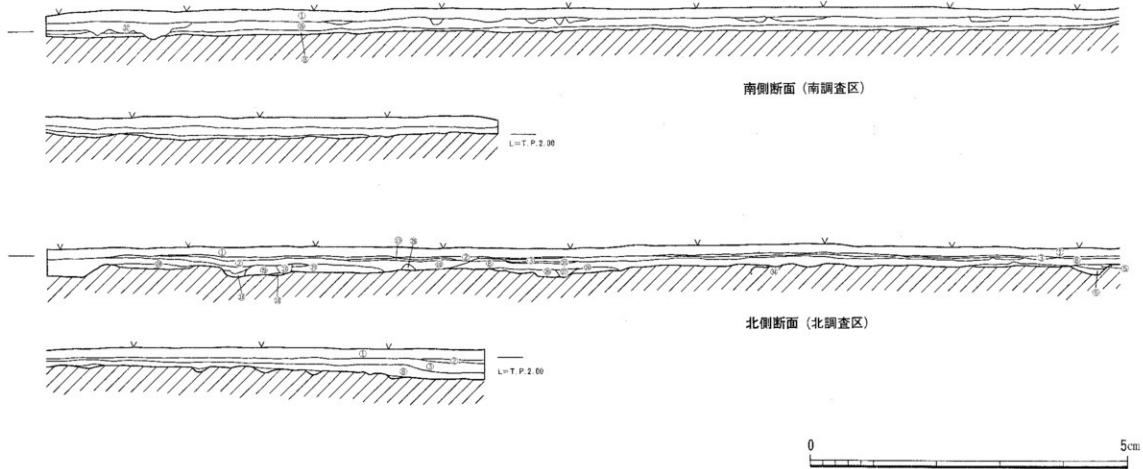


0 5 cm

- | | | |
|-------------------|------------------------|-------------------------|
| ①耕 土 | ⑩灰 色 粘 质 上 层 (褐色粘土まじり) | ⑪上 り や や 灰 色 强 し |
| ②淡灰褐色粘质上层 | ⑪灰 色 粘 质 上 层 | ⑫耕 分 层 |
| ③灰 黄 褐 色 粘 质 上 层 | ⑫淡灰褐色粘质土层 | ⑬暗灰褐色粘质土层 |
| ④灰茶褐色粘质上层 | ⑬(0)灰黄色アロックまじり | ⑭灰 色 粘 质 上 层 (茶褐色粘土まじり) |
| ⑤灰褐色粘质土层 | ⑭(0)より灰状强し | ⑮黄褐色粘质土层 |
| ⑥灰茶褐色砂质土层 | ⑮灰黑色砂质土层 | ⑯耕茶褐色粘质土层 |
| ⑦灰褐色粘质土层 (黄褐色まじり) | ⑯灰褐色粘质土层 | ⑰灰褐色粘质土层 |
| ⑧暗褐色粘质土层 | ⑰(0)灰褐色粘质土层 | ⑱(0)灰黄褐色粘质土层 |
| ⑨(0)より灰色强し | ⑱(0)茶褐色粘质土层 | ⑲茶褐色粘质土层 |
| ⑩淡灰黄褐色粘质土层 | ⑲灰褐色シルト层 | |

- | |
|-----------|
| ⑩淡茶褐色粘质土层 |
| ⑪輪灰色粘质土层 |
| ⑫暗灰褐色粘质土层 |
| ⑬灰黄白色粘质土层 |

図3 調査区断面図(東側断面・西側断面)



挿図4 調査区断面図(南側断面・北側断面)

①艶上	⑪灰褐色粘土層(褐色粘土まじり)
②黄褐色粘土層	⑫灰色粘土層
③灰黃褐色粘土層	⑬灰黑色粘土層
④灰茶褐色粘土層	⑭灰褐色(ブックマクリ)
⑤褐褐色粘土層	⑮○灰褐色強し
⑥茶褐色砂質粘土層	⑯黒褐色粘土層
⑦灰色粘土層(褐色色まじり)	⑰灰褐色粘土層
⑧褐褐色粘土層	⑱灰層
⑨土色褐色強し	⑲暗青灰色粘土層
⑩灰褐色粘土層	⑳灰黑色シート層

①灰色粘土層(褐色粘土まじり)	②よりやや灰色強し
⑤灰色粘土層	③鉄分強
⑥淡褐色灰粘土層	④暗褐色粘土層
⑦に灰色強くまじり	⑤灰色粘土層(茶褐色)
⑧より灰色強し	⑥黄褐色粘土層
⑨黒褐色灰粘土層	⑦暗褐色粘土層
⑩灰褐色粘土層	⑧灰色砂質土層
⑪灰層	⑨暗褐色灰粘土層
⑫暗青灰色粘土層	⑩暗黃褐色灰粘土層
⑬灰綠色粘土層	⑪茶褐色粘土層

- ①淡茶褐色粘質土層
- ②暗灰色砂質土層
- ③淡黃灰褐色粘質土層
- ④灰黃白色黏質土層

10~80cmを測り、柱根を残す柱穴も数ヶ所検出した。柱穴の内部からは、少量の黒色土器や土師器が出土しており、他の遺構との時期差はほとんど認められない。

建物関係については、現在検討中である。

井戸

北調査区の北端で井戸を1基検出した。井戸は、直径60cm、深さ約1mを測り、内部には井戸枠等の施設は何も残っていない、素掘りの状態で検出された。しかし、地質の面から観察すると、この井戸は使用時においては何らかの施設がなければ、井戸の壁が崩れてしまう可能性がある。このため、本来この井戸が使用されていた時には石組かあるいは木の井戸枠等の何らかの施設があり、井戸としての機能が無くなったら時点においてそれらの施設を取り去り新たに掘られた井戸に使用されたと考えられる。

井戸の内部からは、木片・小石や底部外面に墨書きのある黒色土器・杯B(46)等が出土したけれども、その出土量は多くはない。

灰原

北調査区の中央付近で灰原を検出した。灰原は、東西約10m、南北約8mの範囲に大きく広がっており、層の厚さは30~40cmを測る。

今回報告している遺物の多くがこの灰原からの出土のものであり、報告(図化)できなかった遺物についても、今回の調査で最も多く出土しているのがこの灰原からである。遺物としては、黒色土器(杯B・椀・皿B・折縁皿・鉢I・小鉢・甕)・土師器(杯A・皿A・杯B・甕)・須恵器(壺・椀・甕)・縁釉陶器(輪花椀・椀・小杯・小皿・皿)・灰釉陶器(瓶子・椀・手付瓶・短頸甕)・丸瓦等が出土している。

また、灰・炭・焼上・焼土塊等が層として検出されている。

今向記の様な良好な灰原を検出することができたが、窯本体は検出することはできなかった。しかし、今回灰原を検出できたことは、当遺跡の周辺に何らかの窯跡が存在することを示唆するものであり、今後周辺調査が進むことによって解明されるであろう。

第4章 出土遺物

今回の調査で出土した遺物は、平安時代中期の土器が主流を占めており、他に弥生時代の石器、古墳時代・中世の土器、瓦があり、木製品としては柱根がある。

1. 平安時代中期の土器

灰原、土壤、溝、柱穴などの遺構から、黒色土器、土師器、須恵器、綠釉陶器、灰釉陶器が出土している。土師器が最も多く、次いで黒色土器、やや少なくなつて須恵器と続き、綠釉・灰釉陶器がそれぞれ出土している。特に、灰原、土壤112からは大量に出土しており、この時期の好資料である。なお灰原は上・下層に土壤112は上・中・下層に分かれ、観察表にはそれぞれ明記してあるが、場所によっては明確に分けることができなかつたので、その場合はそれぞれ遺構名のみ記した。

黒色土器、土師器の器種名であるが、無高台の杯を杯A、有高台の杯を杯B、無高台の皿を皿A、有高台の皿を皿Bとする。また黒色土器では、従来言われている通りに、内面のみ漆黒色のものをA類、両面とも漆黒色のものをB類とした。

(1) 黒色土器

主な器種として、杯B（椀）、皿B、耳皿、段皿、甕、小鉢、鉢がある。数点の椀のみがB類で、他は全てA類である。黒色土器の中では杯B（椀）がほとんどを占める。

a) 杯B（椀）

(1) から(47)が杯B（椀）である。器高の低い杯形のものから、器高の高い椀形のものまであり、厳密に区別することはできない。ここでは便宜上、杯Bに統一しておきたい。さて杯Bは、下げ底、丸底、平底などの底部に断面三角形の高台を付し、内縁気味に立ち上がる体部をもち、口縁部は直線状のもの、外反するもの、両方の中間的なものがあり、さらに口縁端部内側に沈線を巡らすものと、巡らさないものがある。

灰原出土の杯B(1)～(22)は、器高指数で分けると器高指数が23～27のもの、30前後のもの、34～36のものと3群に分かれる。器高指数34～36のものは椀とした方が適当であろう。灰原は上・下層に分かれるが、下層出土の杯Bは小数のため差異は明確ではない。ただ器高指数が34～36と高いものが、上層のみにみられることが指摘できる。(1)(6)は大形品で、(1)は口径19.4cm、器高6.9cm、(6)は口径19.8cm、器高6.2cmを測る。(15)の体部内面、(18)の底部内面にはそれぞれ暗文が施されている。

土壤112出土の杯B(23)～(37)であるが、下層出土のものは器高指数22～27を、中層・上層出土のものは器高指数30前後を示し、杯形から椀形へと器高が高くなっていくことがわかる。下層出土の(36)は器高指数22とやや古い型式であり、上層出土の(37)は高台が高くやや新しい様相を呈する。(27)は底部外縁半分まで漆黒色を呈するが、外面の調整は若干箇所削るもの指圧痕が残り、ヘラミガキを施していない、漆黒色を呈していない部分があることからA類であろう。(23)は口縁部の両側に、(30)は外側に沈線を施している特異な例である。

土壤105出土の杯B(38)～(44)は、器高指数25～29と比較的まとまっており、(44)以外は口縁

部内面に沈線をもたない。(44)は内外面とも漆黒色を呈するが、(27)と同様に外面調整は荒く、B類であると断定できない。(27)のような例と考え、A類に含めておきたい。

(48) (49)は溝119出土の杯Bであるが、溝119は灰原と隣接していて灰原の遺物が溝内に流れ込んでおり、両方とも灰原から流入した遺物と考えられる。(48)は器高指数38で杯というより碗であり、底部内面に暗文を施している。

(45)は溝110出土。(46)は井戸1下層出土の底部片であり、底部外に墨書がなされているが、一部分であるために判読は不可能である。

(47)はB類碗の底部破片である。内外面とも全面にわたり丁寧にヘラミガキを施している。包含層より出土。他に同様な底部破片が1点包含層より出土している。

b) その他の器種

皿B (52)～(55)は器高指数14～17で、底部から内彎気味に、又は直線状に立ち上がり口縁が外反する。沈線を有するもの(54) (55)と、無いもの(52) (53)がある。(55)は内面に十字の位置に暗文を施している。

耳皿が2点出土している。(50)は1/2ほどの破片で、耳を大きく折り曲げている。(51)は1/3ほどの破片で、耳を(50)ほどは大きく折り曲げていない。(50)は高台を欠損するが、どちらも輪高台である。

(56)は段皿の破片である。口縁部を折り曲げて外面に段を作っている。体部下半わずかに漆黒色を呈していない部分がありA類とわかるが、小片であり断定はできない。

小鉢は3点出土している。(63)は内彎する体部に短く外反する口縁をもち、底部は平底を呈している。外面を箆で削って器壁を薄く仕上げている。(62)も底部を欠損するが同様な形態であろう。やや厚手。今回図化したもの以外にあと1点出土しているが、(62)に類似した形態のものである。

鉢は丸い体部に短く外反する口縁がつくもの(57)～(59)(鉢I)と、須恵器の練鉢に似た形態で平底にやや内彎しながらのびる体部をもつもの(60)(鉢II)の2形態がある。鉢Iは底部に高台が付くタイプであろう。(58) (59)とも外面を箆で削っている。(57)は内外面とも漆黒色を呈するが、小片でありA類・B類かは不明。鉢IIは外面を箆で削っており、内面には暗文を施している。

甕(61) (64)は、丸底の底部に「く」の字に屈曲する口頭部をもつもので、体部上位に最大径を有し、口縁部径と体部最大径はほぼ等しい。(64)は、口縁部内面に一条の沈線が巡る。

(2)上部器

器種としては、杯A、杯B、皿A、小皿、甕、羽釜、鉢が挙げられる。杯Aが半数以上を占め、次いで甕、皿Aがあり、数が減って羽釜が続く。杯Bはわずかで、小皿・鉢は現在1点しか確認していない。

a) 杯A

器高指数が18～32で、浅いものから深手のものまで出土している。器形により丸底のもの((65) (67)など)、平底・または平底気味で体部が内彎しながら立ち上がるもの((66) (76)など)、平底で体部が直線状に立ち上がるもの((82) (87)など)にわけられ、これに口縁の形を加えて細別も可能であ

る。器高指数が高いもの（25以上）ほど丸底のものが多く、低いもの（24以下）には平底が多い傾向がある。杯Aの調整は全て口縁部だけをなでるe手法であるが、内面に刷毛調整を施すものもある。

灰原出土の杯A（65）～（98）は上・下層に分かれるが、あまり差異は認められない。ただ上層出土の杯Aの平均法量は、口径14.2cm、器高3.2cm、器高指数23を測り、下層出土のものは口径14.3cm、器高3.5cm、器高指数24と、上層出土の杯Aが下層出土のものに較べ法量を減じていることが指摘できる。（65）は1単位9条以上の刷毛目が、口縁部外面を一周する。

土壤112出土の杯A（99）～（150）は、平均の器高指数は24と上・中・下層とも変わらないが、平均の口径・器高は下層では14.4cmと3.5cm、中層では14.0cmと3.4cm、上層では14.0cmと3.3cmというように、わずかずつながら下層から上層にむかうにつれ法量が減少している。（122）は口縁部に刷毛のような原体による凹線が内面に2本、外面に4本巡っている。

土壤105の杯Aでは、（151）が器高指数32と深手であるが、（152）～（155）は器高指数21～25と比較的まとまつた数値を示している。

（156）はPit220より出土。（157）（158）は包含層より出土。

b) 杯B

國化できたのは2点のみで、他は全て細片である。（159）（160）とも高台をつけた平底から内彎しながら立ち上がる体部を有し、口縁を外反させる。（160）は特に腰部に張りがあり、口縁部外面に化粧土を塗布している。どちらもe手法。（159）は灰原より出土。（160）は溝119からの出土であるが、灰原から流れ込んだ可能性もある。

c) 盆A、小皿

盆Aは器高指数が16～19と高めのもの、11～15と低めのものがある。指数9と極端に低いものも出土しているが、（175）1点のみである。（165）（172）以外は全て口縁を外反させ端部をつまみあげたもので、いわゆる「て」の字状口縁であり、e手法である。

灰原出土の盆Aは、器高指数が高めのもの（161）～（166）と、低めのもの（167）～（169）とがある。灰原は上・下層に分かれるが、上層出土の盆Aは非常に少ない。

土壤112出土の盆Aは上・中・下層から出土しているが、個体数が少なく差異は明確ではない。器高指数が高めのもの（170）～（172）、低めのもの（173）・（174）、極端に低いもの（175）とある。（175）は広く平坦な底部に短い口縁部をもつもので、やや古い様相をもつものと考えられる。

小皿（176）は口径11.2cm、器高1.5cmと小さく、土壤112の上層より出土している。当遺跡ではこれ1点のみである。口縁はいわゆる「て」の字状口縁。

d) その他の器種

甕は内彎する体部に、「く」の字に屈曲する口頸部をもつもの（177）～（181）である。肩部に明瞭な段を成すもの（177）もある。調整は、外面はオサエとナデで凹凸が激しく、内面はナデである。（182）は口縁を一度外傾させてさらに上へ折り曲げるもので、底部は欠損するがおそらく丸底であろう。ここでは甕としておく。外面は刷毛調整。

（183）は羽釜で、短い口縁下に水平の径27.6cmの鉢を付ける。外面は刷毛調整。内面はヘラケズ

り。

(184) は鉢の底部で、平底に断面三角形の高台を付す。内外面ともナデ調整。高台はヨコナデ。

(3)須恵器

器種として、椀、壺、甕、瓶子などが挙げられる。他に鉢と思われる破片がある。

(190) (191) は椀の破片である。(191) はほぼ直線状に「ハ」の字に開く口縁部で、端部を丸くおさめている。(190) は平底の底部片で、体部は内彎しながら立ち上がる。底部外面に糸切り痕。

(189) は小型の壺である。外反する口縁部に、上下に拡張する端部をもつ。体部は内彎し、体部中位でも肩部寄りに最大径を有する。底部は平底で、外面に糸切り痕を残す。

(186) ~ (188) は甕の口頭部である。形態はバラエティーに富む。(186) はやや短い頭部に強く外反する口縁部をもち、端部は上下に拡張する。肩に「×」字のヘラ記号が刻まれている。(187) は広口甕で、外傾する頭部に強く外反して「て」の字に屈曲する口縁部をもつ。内外面に自然釉がかかっている。(188) は長頸甕で、外傾する頭部にさらに外反する口縁部をもち、端部は上下に拡張する。

(185) (195) ~ (199) は壺の体部~底部である。(195) ~ (197) (199) は糸切りによる平底の底部に、上外方へ直線状にのびる体部をもつ。さらに(195) は残存部上端で内傾して肩部を形成する。(198) も糸切りによる平底の底部だが、体部はほぼ上方に直線上にのびる。(185) は大形品で平底に断面台形の高台を巡らす。体部は上外方へ直線状にのびる。回転ナデ調整。但し底部外面は不定方向のナデ。

(193) は双耳壺の肩部である。片耳のみ。比較的大きな耳でナデ調整。張り付けである。体部内外面とも回転ナデ。(194) は甕。口縁部は外傾して端部に平坦な面をもつ。内彎する体部には、外面に格子状の叩き、内面に同心円文の叩きを施す。(192) は長胴甕で、体部外面上位に1条の凹線を巡らす。外面に格子状の叩きを施す。

今回図化したものの他には、甕の体・底部の破片があり、須恵器の中では半数以上を占める。他には壺の破片があり、鉢と思われる破片も小数出土している。

(4)綠釉陶器

器種として、椀、皿、耳皿、小杯を挙げることができる。2点の近江產を除いて、他は全て平安京近郊産である。

(200) は輪花椀で、口縁に4つ(内1つは欠損)の輪花を有する。体部下半はやや張りがあり、口縁部はゆるやかに外反する。蛇ノ目高台で糸切りの後、底部外面を笠で削り取っている。外面は回転ヘラケズリ。底部外面を除く全面に施釉。硬質。

(201) は椀で、(200) と同様に体部下半はやや張りがあり、口縁部はゆるやかに外反する。蛇ノ目高台で、底部外面を笠で削り取っている。外面は回転ヘラケズリ。全面に施釉。硬質。

(202) は棱椀である。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部はゆるやかに外反して、体部内面中位に棱を有する。蛇ノ目高台。内面にミガキ調整が見られる。体部と高台の境に凹みが巡っている。全面に施釉。軟質。

(203) は椀の底部。体部は内彎しながら立ち上がり、底部内面には1条の沈線を巡らす。輪高台で高台内側に段が付き、端部はやや尖り気味である。底部外面に糸切り痕、底部内外面に三叉トチン

痕が残る。全面に施釉しており、釉調は濃緑色である。硬質。

(204) は耳皿で片耳を欠損する。耳部はわずかに波状を呈する。円盤高台で底部に糸切り痕を残す。釉はほとんど剥落してしまっている。軟質。

(205) は小皿である。体部は内彌氣味に立ち上がり、口縁部はやや外反する。高台部は外面強いナデで張り出し、おそらく平高台。底部外面を除く全面に施釉。硬質。

(206) は小皿である。体部はやや内彌しながら立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。輪高台で、接地面を凹ませている。体部と高台の境に一条の沈線が巡っている。回転ナデ調整。底部外面には糸切り痕が残る。全面に施釉。硬質。

(207) は輪花皿であるが、輪花の数は不明。体部はやや内彌しながら立ち上がり、口縁部はまっすぐにのびる。蛇ノ目高台。外面は回転ヘラケズリ調整。全面に施釉。硬質。

(208) も輪花皿であるが、輪花の数は不明。体部はやや内彌しながら立ち上がり、口縁部はゆるやかに外反する。輪花台。外面は回転ヘラケズリ調整。底部外面を除く全面に施釉。硬質。

(209) は椀もしくは皿の底部。蛇ノ目高台。全面施釉。

(210) は碗の底部である。輪高台。外面をヘラケズリで成形している。釉は施されておらず、いわゆる無釉陶器である。硬質。

他に椀・皿類の破片が十数個体分出土している。

ところで、これら綠釉陶器の生産地と年代であるが、(202、204) は軟質であり器形などから平安京近郊でも洛北古窯跡群の製品で、9世紀中頃から後半のものと推定される。さらに(200、201、205、207～209) は洛西の大原野古窯跡群の製品で、(201、207、209) は全面に施釉されており9世紀末、

(200、205、208) は底部外面には施釉していないことから10世紀前半のものと推定される。(203、206) は高台内側に段を付けたり、接地面を凹ませていることから近江岸の製品で、10世紀後半のものと推定される。

(5) 灰釉陶器

器種として、椀、瓶子、長頸瓶、手付瓶、短頸壺、双耳壺がある。釉調・胎土などから、全て美濃国の東濃地区の窯跡群（東濃窯）の製品であると考えられる。

灰釉陶器の編年については、田口昭二氏の編年「光ヶ丘1号窯式→大原2号窯式→虎渓山1号窯式」⁽⁴⁾を用い、各窯式の年代については研究者により多少の違いがあるが、ここでは前川要氏の論文に拠り、光ヶ丘1号窯式を9世紀後半、大原2号窯式を10世紀前半、虎渓山1号窯式を10世紀後半とする。

(212)～(216) は椀である。(212) はほぼ直線状に「ハ」の字に聞く口縁部で、端部をわずかに外反させている。外面は回転ヘラケズリ調整。釉は刷毛塗りである。光ヶ丘1号窯式。(213)～(216) は底部片で、やや外側に聞く張りつけ高台をもち、体部外面は回転ヘラケズリ調整をしている。(215) はいわゆる三日月高台で、高台外側下半を笠で面取りしており、さらに刷毛塗りの施釉であることから光ヶ丘1号窯式である。(214) もいわゆる三日月高台で、高台外側に鈍い稜をもっており、光ヶ丘1号窯式もしくは大原2号窯式である。(213) (216) では、高台は幅広く端部を丸くおさめており、虎渓山1号窯式であろう。中でも(213) は高台が他の2つより若干高く、やや深いタイプの椀にあたると思われる。

(211) は瓶子で、口縁部を欠損する。回転ナデ調整。底部は平底で、糸切り痕を残す。頸部から

胴部平面にかけて施釉。最大径が上から2/3ほどの所にあり、光ヶ丘1号窯式であろう。

(219) は手付瓶の底部と考えられる。外面は回転ヘラケズリ調整、内面は回転ナデ調整。刷毛塗りの釉がわずかに残る。最大径が上から2/3ほどの所にくると思われる。光ヶ丘1号窯式であろう。

(217) (218) (220) ~ (222) は瓶類の破片である。(220) は長頸瓶もしくは広口瓶の口縁部で、端部が下方に張り出す。釉を施してもいるが自然釉がかかっている。(218) は長頸瓶の、(217) は長頸瓶もしくは広口瓶の頸部で、内彌する肩部に、上方に直線状にのびる頸部をもつ。内面は回転ナデ調整。外面は自然釉がかかり、調整不明。(221) は長頸瓶の底部、(222) は(223) の底部部と思われるが不明。どちらとも外側に聞く断面方形の高台をもつ。外面は回転ヘラケズリ調整。内面及び高台は回転ナデ調整。高台外面と底部内面の一部に自然釉がかかり、特に(221) の高台外面ではコバルトブルーに発色している。

(223) は短頸壺の口縁から肩部にかけての破片で、やや外側に聞く短い口縁部と内彌する肩部をもつ。体部外面は回転ヘラケズリ調整で、他は回転ナデ調整。口縁部外面及び肩部にかけて自然釉がかかっているが、口縁部上半分は釉がとれてしまっている。大原2号窯式。

双耳壺は小片のため図化不可能だが、耳の接合部の破片である。他に腕の破片が数個体分、壺・瓶類の破片が出土している。

2. その他の遺物

(1) 古墳時代の土器

包含層から、または平安時代の遺構に混入して出土している。須恵器のみである。

(224) は杯蓋。口縁部は開き気味で、端部は平坦面をもつ。天井・口縁部の境に、稜・沈線が巡り、回転ヘラケズリの範囲は、天井部外周の3/5ほどである。中村浩氏の編年I型式3段階。

(225) は杯身で、外彌するたちあがりに端部を丸くおさめる。回転ヘラケズリが受部近くまで施されており、中村氏の編年I型式4段階であろう。

(226) も杯身で、端部の尖る短いたちあがりをもち、受部はやや下外方へ傾く。中村氏の編年II型式。

(227) は泡の体部片。外面に2本の凹線文、その間に4条／5mmの櫛状工具による波状文を施す。回転ナデ調整。中村氏の編年I型式3・4段階。

(2) 中世の土器

包含層より出土している。土師器、瓦器、瓦質土器、陶磁器などがあり、土器の他に古鏡が出土している。

(229) は青磁の碗である。内彌する体部に、口縁部はわずかに外反する。体部外面を回転ヘラケズリ。内面には、笠及び櫛状工具による花文様を施す。残存部では全面施釉。横田賢次郎・森田勉両氏の分類で、龍泉窯系青磁碗I-3。

(231) は白磁の碗の底部である。高台を外面に直し、内面を斜めに削りだし、体部外面を回転ヘラケズリしている。内面と体部上半に釉を施すが、釉全体に貫入がみられる。横田・森田両氏の分類で、白磁碗II-1。

(230) も白磁の椀で、玉縁の口縁部片である。玉縁下に1条の沈線。横田・森田両氏の分類で、白磁椀N類。他に同タイプの破片が1点出土している。

(228) は土器器の小皿で、斜め上方へ短くのびる口縁をもつ。ヨコナデ。

(3)瓦

平安時代中期の遺構から、土器に伴い出土している。

(236) (238) は丸瓦の端部片で、凹面に布目痕。(236) の凸面は板状工具によるナデで、さらに凹面の側辺沿い及び側面を笠で面取りしている。

(237) (239) は平瓦の破片。(237) は側辺の部分で、凹面に布目痕が残るが、一部板状工具により消されている。(239) は広端部の角で、凸面に繩目のかみきが残るが、凹面は調整不明。硬質で、しかも両面のみ磨滅著しく砥石として再利用した可能性有り。

(236) は土師質。(237) ~ (239) は須恵質。丸片は他に十数点出土している。

(4)上鍤

(232) は小型で細長いタイプで、縱に孔が貫通する。時期不明。他にもう1点出土している。

(5)石器

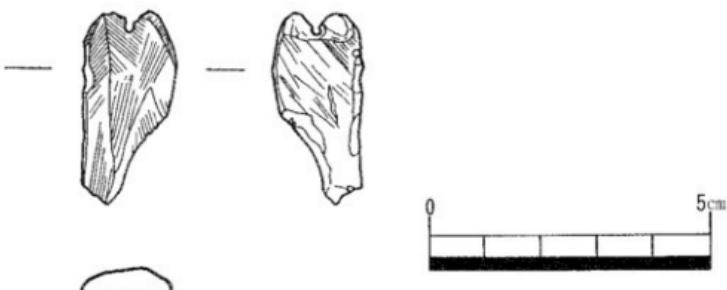
包含層または、平安時代の遺構に混入して出土している。

(234) は砥石。欠損のため全体の形状は不明だが、長方形と思われる。各面に、金属製品で突いた痕がみられる。石材は凝灰岩。時期不明。

(233) は太型蛤刃石斧の胸部の破片。全体を丁寧に研磨する敲打痕を残す。石材は安山岩。弥生時代。

(235) は投弾と思われる。梢円形。石材は花崗質砂岩。弥生時代のものであろう。

(236) は用途不明石器。上端部と下半を欠損する。一侧面を除き、丁寧な研磨を施す。上端に直径2mmの孔を穿つ。断面は扁平な不等辺六角形。石材は泥岩。弥生時代のものであろう。



挿図5 用途不明石器

註

- (1) 楠本久和「機内の中黒色土器（1）」『中近世土器の基礎研究』Ⅱ 日本中世土器研究会 1986
によると、「器高指数30を目安として、それ以上を掩とするが致密なものではない」としている。
※器高指数＝器高 ÷ 口径 × 100
- (2) 田辺伸夫・安田龍太郎・糸淳一郎「土器」『平城宮跡発掘調査報告』X 1 奈良国立文化財研究所 1982 153頁
糸淳一郎「土器」『平城宮跡発掘調査報告』奈良国立文化財研究所 1985 93頁
- (3) 灰釉陶器については以下の文献を参考にした。
白瀬正臣「平安時代の灰釉陶器—平安京近郊の生産窯について—」『中近世土器の基礎研究』Ⅱ 日本中世土器研究会 1986
- (4) a) 田口昭二「美濃窯の灰釉陶器と綠釉陶器」『考古学ジャーナル』No.211 1982
他に以下の論文を参照した。
b) 楠崎彰一・斎藤孝正「猿投窯編年の再検討について」（シンポジウム『平安時代の土器・陶器—各地域の諸様相と今後の課題—』の記録）『愛知県陶磁資料館研究紀要』2 1983
c) 前川要「猿投窯における灰釉陶器生産最末期の諸様相—瀬戸市百代寺窯出土遺物を中心にして—」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要』Ⅲ 1984
- (5) 前掲註（4-c）
前川要「平安時代における東海系綠釉陶器の使用形態について」『中近世土器の基礎研究』Ⅲ 日本中世土器研究会 1987
- (6) 中村浩「和泉陶邑窯出土遺物の時期編年」『陶邑』Ⅲ 大阪府教育委員会 1978
中村浩「出土須恵器の編年的考察」『和泉陶邑窯の研究—須恵器生産の基礎的考察—』 柏書房 1981
- (7) 横田賢次郎・森田勉「大宰府出土の輸入中国陶磁器について—型式分類と編年を中心として—」『九州歴史資料館研究論集』4 1978

第5章 遺物観察表

黒色土器・杯B

番号	地区	遺構	層位	法量(㎤)			技法上の特徴	色調(%) (%)	胎土	焼成	備考
				口径	器高	底径					
1	10区	灰原	上層	19.4 (復元)	6.9	10.8 (復元)	外面オサエ後ナデ、内面調整不明	淡橙色 黒色	やや 粗い	良好	A類 指數36
2	10区	灰原	上層	14.3	4.9	7.8	外面オサエ後ナデ、内面ヘラミガキ、口縁部内面に沈線	淡橙色 黒色	精良	良好	A類 指數34
3	10区	灰原	上層	13.4 (復元)	4.3	6.5 (復元)	内外面とも調整不明	淡橙色 黒色	やや 粗い	良好	A類 指數32
4	10区	灰原	—	14.2	4.5	7.2	外面オサエ後ナデ、内面ヘラミガキ、口縁部内面に沈線	灰茶褐色 黒色	精良	やや 不良	A類 指數32
5	10区	灰原	上層	16.2 (復元)	5.1	9.0 (復元)	内外面とも調整不明	淡橙色 黒色	精良	良好	A類 指數32
6	14区	灰原	上層	19.8 (復元)	6.2	8.6	外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキ、口縁部内面に沈線	明褐色 黒色	精良	良好	A類 指數31
7	10区	灰原	上層	15.1	4.7	8.0	外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキ、口縁部内面に沈線	淡橙色 黒色	やや 粗い	良好	A類 指數31
8	10区	灰原	上層	15.0	4.6	8.0	外面オサエ後ナデ、内面ヘラミガキ、口縁部内面に沈線	淡橙色 黒色	精良	良好	A類 指數31
9	10区	灰原	上層	16.5	5.1	8.9	外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキ、口縁部内面に沈線	淡橙色 黒色	精良	良好	A類 指數31
10	10区	灰原	下層	16.4 (復元)	5.0	8.2 (復元)	外面オサエ後ナデ、内面ヘラミガキ、外面上に化粧土?	淡赤橙色 黒色	精良	良好	A類 指數30
11	10区	灰原	下層	15.0 (復元)	4.5	8.3 (復元)	外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキ、口縁部内面に沈線	淡橙色 黒色	やや 粗い	良好	A類 指數30
12	10区	灰原	上層	15.2	4.5	7.6	外面オサエ後ナデ、内面調整不明、口縁部内面に沈線	淡橙色 黒色	精良	良好	A類 指數30
13	10区	灰原	—	18.9 (復元)	5.6	9.8 (復元)	外面オサエ後ナデ、内面ヘラミガキ、口縁部内面に沈線	灰系褐色 黒色	精良	良好	A類 指數30
14	10区	灰原	上層	13.9 (復元)	4.1	6.4 (復元)	外面オサエ後ナデ、内面ヘラミガキ	淡灰褐色 黒色	精良	良好	A類 指數30
15	10区	灰原	上層	16.0	4.5	8.7	外面オサエ後ナデ、内面ヘラミガキ、口縁部内面に沈線、体部内面に暗文を施す	淡橙色 黒色	精良	良好	A類 指數28
16	10区	灰原	—	15.5	4.2	7.3	外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキ、口縁部内面に沈線	淡橙色 黒色	精良	良好	A類 指數27
17	10区	灰原	上層	16.1 (復元)	4.2	9.6 (復元)	外面オサエ後ナデ、内面調整不明	淡橙色 黒色	精良	良好	A類 指數26
18	10区	灰原	上層	16.5	4.2	7.7	外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキ、口縁部内面に沈線、底部内面に暗文を施す	淡橙色 黒色	精良	良好	A類 指數25
19	10区	灰原	下層	15.9 (復元)	4.0	8.4 (復元)	外面オサエ後ナデ、内面ヘラミガキ、口縁部内面に沈線、底部外面ヘラミガキ	淡灰褐色 黒色	精良	良好	A類 指數25
20	10区	灰原	上層	16.5	4.2	10.0	外面オサエ後ナデ、内面ヘラミガキ、口縁部内面に沈線	淡橙色 黒色	精良	良好	A類 指數24
21	10区	灰原	上層	18.9 (復元)	4.5	8.6 (復元)	外面オサエ後ナデ、内面ヘラミガキ、口縁部内面に沈線	淡橙色 黒色	精良	良好	A類 指數24
22	10区	灰原	上層	19.2 (復元)	4.6	— (残存)	外面オサエ後ナデ、内面ヘラミガキ、口縁部内面に沈線	淡橙色 黒色	やや 粗い	良好	A類
23	扒塗部	土壤112	中層	14.4 (復元)	4.6	6.6 (復元)	外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキ、口縁部内面に沈線	淡橙色 黒色	やや 粗い	良好	A類 指數32
24	扒塗部	土壤112	中層	15.0	4.7	7.4	外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキ	淡橙色 明褐色 黒色	精良	良好	A類 指數31

番号	地区	遺構	層位	法量(㎤)			技法土の特徴	色調(⑨) (⑩)	胎土	焼成	備考
				口径	器高	底径					
25	16区	土壤112	上層	15.5	4.7	7.5	外側オサエ後ナデ、内面ヘラミガキ、口縁部内面に沈線	淡灰褐色 黒色	精良	良好	A類 指數30
26	16区	土壤112	上層 (復元)	14.9	4.5	6.4	外側オサエ後ナデ、内面ヘラミガキ、口縁部内面に沈線	淡橙色 黒色	やや 粗い	良好	A類 指數30
27	16区	土壤112	中層 (復元)	14.7	4.4	7.9	外側ヘラケズリ、内面ヘラミガキ、口縁部内面に沈線	淡橙色 黒色	精良	良好	A類 指數30
28	拡張部	土壤112	-- (復元)	15.1	4.3	8.4	外側面とも調整不明 口縁部内面に沈線	淡橙色 黒色	精良	良好	A類 指數29
29	16区	土壤112	中層	15.4	4.3	8.0	外側ヘラケズリ、内面ヘラミガキ、口縁部内面に沈線	明橙色 黒色	良	良好	A類 指數28
30	16区	土壤112	中層 (復元)	15.5	4.3	8.8	外側ヘラケズリ、内面ヘラミガキ、口縁部内面に沈線	淡灰褐色 黒色	精良	良好	A類 指數28
31	拡張部	土壤112	--	15.5	4.2	8.2	外側オサエ後ナデ、内面ヘラミガキ、口縁部内面に沈線	淡橙色 黒色	やや 粗い	良好	A類 指數27
32	16区	土壤112	下層 (復元)	15.6	4.2	8.2	外側オサエ後ナデ、内面ヘラミガキ 半	淡橙色 黒色	精良	良好	A類 指數27
33	拡張部	土壤112	下層 (復元)	16.2	4.2	7.6	外側ヘラケズリ、内面ヘラミガキ	淡褐色 黒色	精良	良好	A類 指數26
34	16区	土壤112	下層	16.5	4.2	8.5	外側オサエ後ナデ、内面ヘラミガキ、口縁部内面に沈線	淡橙色 黒色	精良	良好	A類 指數26
35	16区	土壤112	下層	15.4	3.8	7.6	外側ヘラケズリ、内面ヘラミガキ	淡橙色 明橙色 黒色	精良	良好	A類 指數25
36	拡張部	土壤112	下層 (復元)	16.8	3.7	10.4	外側オサエ後ナデ、内面ヘラミガキ	淡橙色 黒色	精良	良好	A類 指數22
37	16区	土壤112	上層	--	1.9 (残存)	8.8	内面ヘラミガキ	淡橙色 黒色	良	良好	A類
38	14区	土壤105	--	16.6	4.8	8.8	外側ヘラケズリ、内面ヘラミガキ	淡橙色 明橙色 黒色	精良	良好	A類 指數29
39	14区	土壤105	-- (復元)	16.4	4.7	7.8	外側調整不明、内面ヘラミガキ	淡灰褐色 黒色	精良	やや 不良	A類 指數29
40	14区	土壤105	--	15.6	4.2	8.6	外側オサエ後ナデ、内面ヘラミガキ	淡橙色 黒色	精良	良好	A類 指數27
41	14区	土壤105	--	15.1	4.0	7.8	外側オサエ後ナデ、内面ヘラミガキ	淡橙色 黒色	精良	良好	A類 指數26
42	14区	土壤105	-- (復元)	18.2	4.5	8.4	外側ヘラケズリ、内面調整不明	淡橙色 黒色	精良	良好	A類 指數26
43	14区	土壤105	--	15.5	3.8	8.8	外側オサエ後ナデ、内面ヘラミガキ	淡橙色 黒色	精良	良好	A類 指數25
44	14区	土壤105	-- (残存)	15.8	4.1	--	外側オサエ後ナデ、内面ヘラミガキ、口縁部内面に沈線	残存部黒 色	精良	良好	A類
45	10区	溝110	--	15.5	4.8	7.2	外側オサエ後ナデ、内面調整不明、 口縁部内面に沈線	淡橙色 黒色	精良	良好	A類 指數31
46	14区	井戸1	下層	--	0.8 (残存)	7.5	外側調整不明、内面ヘラミガキ	明橙色 黒色	やや 粗い	良好	A類 底外面 に墨書
48	10区	溝119	-- (復元)	12.5	4.8	6.6	外側オサエ後ナデ、内面ヘラミガキ、 口縁部内面に沈線、底部内面 に暗文	淡橙色 黒色	精良	良好	A類 指數38
49	10区	溝119	-- (復元)	13.9	4.4	7.9	外側オサエ後ナデ、内面ヘラミガ キ	淡橙色 黒色	精良	良好	A類 指數32

黒色土器・その他の器種

番号	器種	地区 造構 層位	法量(cm)	技法上の特徴	色調 (外面) (内面)	胎土	焼成	備考
47	碗	9区 —— 暗褐色粘質土層	口径—— 器高 1.1(残存) 底径 8.4(復元)	内外面ヘラミガキ	黒色 黒色	精良	良好	B類
50	耳皿	10区 灰原 上層	口径10.1 器高 2.7 底径 4.9(復元)	外面ハケ・オサエ後ナデ 内面と耳部外面ヘラミガキ	淡橙色 黒色	精良	良好	A類 片耳のみ残存
51	耳皿	16区 土壤112 下層	口径 9.4(復元) 器高 2.2 底径 6.1(復元)	外面オサエ後ナデ 内面ヘラミガキ	淡橙色 明橙色 黒色	精良	良好	A類 片耳のみ残存
52	皿B	拡張部 土壤112 ——	口径14.0(復元) 器高 2.0 底径 7.8(復元)	外面オサエ後ナデ 内面ヘラミガキ	淡橙色 黒色	精良	良好	A類 指數14
53	皿B	16区 土壤112 中層	口径13.2 器高 2.3 底径 6.5	外面オサエ後ナデ 内面ヘラミガキ	淡橙色 黒色	精良	良好	A類 指數17
54	皿B	10区 灰原 上層	口径14.0(復元) 器高 2.3 底径 7.2(復元)	外面ヘラケズリ 内面調整不明	淡橙色 黒色	精良	良好	A類 指數16
55	皿B	10区 灰原 ——	口径14.1 器高 2.2 底径 7.0	外面オサエ後ナデ、内面ヘラミガキ、 口縁部内面に沈線、内面に十字の位置 に暗窓	淡橙色 黒色	精良	良好	A類 指數16
56	折縁 皿	10区 —— 暗褐色粘質土層	口径—— 器高 2.1(残存) 底径 ——	外面オサエ後ナデ 内面ヘラミガキ	淡橙色 黒色	精良	良好	A類
57	鉢I	10区 灰原 上層	口径—— 器高 2.8(残存) 腹径——	外面ナデ後粗いヘラミガキ 内面ヘラミガキ	黒色 黒色	やや 粗い	良好	不明
58	鉢I	10区 灰原 下層	口径18.2(復元) 器高 4.8(残存) 腹径19.2(復元)	外面オサエ後ナデ 内面調整不明	淡橙色 黒色	精良	良好	A類
59	鉢I	10区 灰原 下層	口径21.5(復元) 器高 9.4(残存) 腹径21.8(復元)	外面ヘラケズリ後ナデ 内面ヘラミガキ	淡橙色 明橙色 黒色	精良	良好	A類
60	鉢II	16区 土壤112 中層	口径24.8(復元) 器高11.0 底径10.2(復元)	外面ヘラケズリ後ナデ 内面ヘラミガキ 体部内面に暗窓	淡橙色 明橙色 黒色	精良	良好	A類
61	甕	拡張部 土壤112 下層	口径14.6(復元) 器高 7.7(残存) 腹径14.2(復元)	外面オサエ後ナデ 内面ハケ 口縁部内外面ハケ後ヨコナデ	灰茶褐色 黒色	精良	良好	A類
62	小鉢	10区 灰原 上層	口径11.0(復元) 器高 5.3(残存) 底径 ——	外面ナデ後粗いヘラミガキ 内面ヘラミガキ	黒色 黒色	精良	良好	A類
63	小鉢	拡張部 土壤112 下層	口径 9.4 器高 4.4 底径 4.4	外面ヘラケズリ 内面ヘラミガキ	淡橙色 黒色	精良	良好	A類
64	甕	10区 灰原 下層	口径14.3(復元) 器高 9.0 腹径14.0(復元)	外面ハケ後ナデ 内面ヘラミガキ 口縁部内面に沈線 口縁部内外面ハケ後ヨコナデ	淡灰褐色 黒色	精良	良好	A類

土師器・杯A

番号	地区	遺構	層位	法量(㎤)		技法上の特徴	色調(?) (内)	胎土	焼成	備考
				口径	器高					
65	10区	灰原	—	14.0	3.9	外面オサエ後ナデ、内面ハケ後ナデ 口縁部外面部ハケ後に内外面ヨコナデ	明橙色 淡桜色	やや 粗い	良好	指数28
66	10区	灰原	下層	14.0	3.8	内外面オサエ後ナデ 口縁部外面部ヨコナデ	淡桜色 淡橙色	精良	良好	指数27
67	10区	灰原	—	14.8	3.8	外面オサエ後ナデ、内面ハケ後ナデ 口縁部外面部ヨコナデ	淡桜色 淡橙色	精良	良好	指数26
68	10区	灰原	上層	13.6	3.5	外面オサエ後ナデ 口縁部外面部ヨコナデ	淡橙色 淡灰白色	粗い 不良	やや	指数26
69	10区	灰原	下層	14.1	3.6	外面オサエ後ナデ 口縁部外面部ヨコナデ	明橙色 淡桜色	精良	良好	指数26
70	10区	灰原	上層	14.5	3.7	外面オサエ後ナデ、内面ハケ後ナデ 口縁部外面部ヨコナデ	淡灰白色 淡桜色	精良	良好	指数26
71	10区	灰原	下層	13.7	3.5	外面オサエ後ナデ、口縁部外面部ヨコナデ、外面上半に化粧土	淡桜色 明桜色	精良	良好	指数26
72	10区	灰原	上層	14.2	3.5	外面オサエ後ナデ、内面ハケ後ナデ 口縁部外面部ヨコナデ	淡桜色 明桜色	精良	良好	指数25
73	10区	灰原	上層	14.4	3.5	外面オサエ後ナデ 口縁部外面部ヨコナデ	淡桜色 淡桜色	精良	良好	指数24
74	10区	灰原	上層	13.6	3.3	外面オサエ後ナデ 口縁部外面部ヨコナデ	淡桜色 明橙色	やや 粗い	良好	指数24
75	10区	灰原	上層	14.2	3.4	外面オサエ後ナデ、内面ハケ後ナデ 口縁部外面部ヨコナデ	淡桜色 明橙色	精良	良好	指数24
76	10区	灰原	上層 (復元)	14.2	3.4	外面オサエ後ナデ 口縁部外面部ヨコナデ	淡桜色 淡桜色	やや 粗い	良好	指数24
77	10区	灰原	上層 (残存)	14.4	3.4	外面オサエ後ナデ 口縁部外面部ヨコナデ	明橙色 淡桜色	やや 粗い	良好	
78	10区	灰原	上層	14.4	3.4	外面オサエ後ナデ 口縁部外面部ヨコナデ	淡桜色 淡桜色	精良	良好	指数24
79	10区	灰原	—	14.9	3.5	外面オサエ後ナデ 口縁部外面部ヨコナデ	淡桜色 淡桜色	精良	良好	指数24
80	10区	灰原	上層	14.3	3.3	外面オサエ後ナデ 口縁部外面部ヨコナデ	淡灰白色 淡灰白色	精良	良好	指数23
81	10区	灰原	上層	14.7	3.4	外面オサエ後ナデ、内面は調整不明 口縁部外面部ヨコナデ	淡灰白色 淡橙色	精良	良好	指数23
82	10区	灰原	上層	13.5	3.1	外面オサエ後ナデ 口縁部外面部ヨコナデ	淡桜色 淡桜色	精良	良好	指数23 黒斑有
83	10区	灰原	下層	15.5	3.5	外面オサエ後ナデ、内面ハケ後ナデ 口縁部外面部ヨコナデ	明桜色 明桜色	精良	良好	指数23
84	10区	灰原	上層	15.1	3.4	外面オサエ後ナデ 口縁部外面部ヨコナデ	淡桜色 淡桜色	やや 粗い	良好	指数23
85	10区	灰原	上層	13.8	3.1	外面オサエ後ナデ、内面ハケ後ナデ 口縁部外面部ヨコナデ	淡桜色 明桜色	精良	良好	指数22
86	10区	灰原	上層 (復元) (残存)	14.3	3.2	内外面調整不明 口縁部外面部ヨコナデ	淡桜色 明橙色	精良	良好	指数22
87	10区	灰原	上層 (復元)	14.6	3.2	外面オサエ後ナデ 口縁部外面部ヨコナデ	淡桜色 淡桜色	やや 粗い	良好	指数22
88	10区	灰原	上層 (復元)	13.8	3.0	外面オサエ後ナデ、内面ハケ後ナデ 口縁部外面部ヨコナデ	淡赤橙色 淡赤橙色	精良	良好	指数22 黒斑有
89	10区	灰原	上層	14.0	3.0	外面オサエ後ナデ 口縁部外面部ヨコナデ	淡桜色 淡桜色	精良	良好	指数22
90	10区	灰原	下層	14.4	3.1	外面オサエ後ナデ 口縁部外面部ヨコナデ	淡桜色 淡桜色	精良	良好	指数22
91	10区	灰原	上層	14.5	3.1	外面オサエ後ナデ 口縁部外面部ヨコナデ	淡灰白色 淡灰白色	精良	良好	指数21

土器・杯 A

番号	地区	遺構	層位	法量(cm)		技法上の特徴	色調(肉眼)	胎土	焼成	備考
				口径	器高					
92	10区	灰原	上層	13.7	2.9	外面オサエ後ナデ、内面ハケ後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	明橙色 明橙色	やや 粗い	良好	指数21
93	10区	灰原	上層	14.6	3.0	外面オサエ後ナデ、内面ハケ後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	明橙色 淡橙色	精良	良好	指数21
94	10区	灰原	--	14.2	2.9	外面オサエ後ナデ 口縁部外面ヨコナデ	淡橙色 淡橙色	精良	良好	指数20 黒斑有
95	10区	灰原	上層	13.7	2.8	外面オサエ後ナデ 口縁部外面ヨコナデ	明橙色 淡橙色	やや 粗い	良好	指数20
96	10区	灰原	上層 (復元)	13.4	2.7	外面オサエ後ナデ 口縁部外面ヨコナデ	淡灰白色 淡灰白色	やや 粗い	不良	指数20
97	10区	灰原	上層	14.1	2.8	外面オサエ後ナデ 口縁部外面ヨコナデ	明橙色 明橙色	やや 粗い	良好	指数20
98	10区	灰原	-- (復元)	14.6	2.8	外面オサエ後ナデ、内面ハケ後ナデ 口縁部外面ヨコナデ	淡灰白色 明橙色	やや 粗い	良好	指数19
99	16区	土壤112	中層	14.2	4.1	外面オサエ後ナデ、内面ハケ後ナデ 口縁部外面ヨコナデ	淡橙色 淡橙色	精良	良好	指数29 黒斑有
100	拡張部	土壤112	--	14.0	4.0	外面オサエ後ナデ、内面ハケ後ナデ 口縁部外面ヨコナデ	淡橙色 明橙色	精良	良好	指数29
101	16区	土壤112	中層	13.6 (復元)	3.8	外面オサエ後ナデ、内面ハケ後ナデ 口縁部外面ヨコナデ	淡橙色 淡橙色	精良	良好	指数28
102	16区	土壤112	上層 (復元)	13.9	3.6	外面オサエ後ナデ、内面ハケ後ナデ 口縁部外面ヨコナデ	淡橙色 淡橙色	やや 粗い	良好	指数28
103	16区	土壤112	上層	13.3	3.6	外面オサエ後ナデ 口縁部外面ヨコナデ	明橙色 明橙色	やや 粗い	良好	指数27
104	16区	土壤112	下層	14.6	3.9	外面オサエ後ナデ 口縁部外面ヨコナデ	明橙色 明橙色	精良	良好	指数27
105	拡張部	土壤112	下層	14.0	3.7	外面オサエ後ナデ 口縁部外面ヨコナデ	淡橙色 淡橙色	やや 粗い	良好	指数26
106	拡張部	土壤112	下層	13.8	3.6	外面オサエ後ナデ 口縁部外面ヨコナデ	明橙色 淡赤褐色	精良	良好	指数26
107	16区	土壤112	上層	13.8	3.6	外面オサエ後ナデ 口縁部外面ヨコナデ	明橙色 淡灰白色	精良	やや 不良	指数26
108	拡張部	土壤112	-- (復元)	14.6	3.8	外面オサエ後ナデ 口縁部外面ヨコナデ	明橙色 明橙色	精良	良好	指数26
109	16区	土壤112	中層	13.9 (復元)	3.6	外面オサエ後ナデ、内面ハケ後ナデ 口縁部外面ヨコナデ	明橙色 明橙色	精良	良好	指数26
110	16区	土壤112	中層	14.4	3.7	外面オサエ後ナデ、内面ハケ後ナデ 口縁部外面ヨコナデ	淡橙色 明橙色	精良	良好	指数26
111	16区	土壤112	中層	13.6 (復元)	3.5	外面オサエ後ナデ 口縁部外面ヨコナデ	淡橙色 明橙色	精良	良好	指数26
112	拡張部	土壤112	下層	14.2	3.6	外面オサエ後ナデ 口縁部外面ヨコナデ	淡橙色 明橙色	精良	良好	指数25
113	16区	土壤112	上層 (復元)	14.0	3.5	外面オサエ後ナデ 口縁部外面ヨコナデ	淡橙色 淡橙色	精良	良好	指数25
114	拡張部	土壤112	--	14.5	3.6	外面オサエ後ナデ、内面ハケ後ナデ 口縁部外面ヨコナデ	淡橙色 淡橙色	粗い	良好	指数25
115	拡張部	土壤112	--	13.8	3.4	外面オサエ後ナデ、内面ハケ後ナデ 口縁部外面ヨコナデ	淡灰白色 淡灰白色	精良	良好	指数25
116	16区	土壤112	中層	13.8	3.4	外面オサエ後ナデ 口縁部外面ヨコナデ	淡橙色 淡橙色	精良	良好	指数25 黒斑有
117	16区	土壤112	下層 (復元)	16.0	3.9	外面オサエ後ナデ、内面ハケ後ナデ 口縁部外面ヨコナデ	淡灰白色 淡橙色	精良	良好	指数24
118	拡張部	土壤112	--	14.0	3.4	外面オサエ後ナデ 口縁部外面ヨコナデ	淡橙色 淡橙色	精良	良好	指数24

土器器・杯A

番号	地区	造構	層位	法量(cm)		技法上の特徴	色調(h) (cm)	胎土	焼成	備考
				口径	器高					
119	16区	土壤II2	上層	13.6 (復元)	3.3	内外面オサニ後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	淡赤橙色 淡赤橙色	やや 粗い	良好	指數24
120	16区	土壤II2	中層	13.6 (復元)	3.3	内外面オサ工後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	明橙色 明橙色	精良	良好	指數24
121	拡張部	土壤II2	下層	15.3 (復元)	3.1	外面オサ工後ナデ、内面ハケ後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	淡橙色 淡橙色	精良	良好	指數24
122	拡張部	土壤II2	下層	14.2	3.4	内外面オサ工後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ、口縁部に凹線が内面に2本、外面上に4本ある	明橙色 明橙色	やや 粗い	良好	指數24
123	16区	土壤II2	中層	14.0	3.3	外面オサ工後ナデ、内面ハケ後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	明橙色 明橙色	精良	良好	指數24
124	拡張部	土壤II2	--	14.4 (復元)	3.4	内外面オサ工後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	淡橙色 淡橙色	やや 粗い	良好	指數24
125	拡張部	土壤II2	中層	14.1	3.3	外面オサ工後ナデ、内面ハケ後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	淡橙色 明橙色	精良	良好	指數23
126	拡張部	土壤II2	--	14.2 (復元)	3.3	外面オサ工後ナデ、内面ハケ後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	淡橙色 淡橙色	精良	良好	指數23
127	拡張部	土壤II2	下層	14.3	3.3	外面オサ工後ナデ、内面調整不明 口縁部内外面ヨコナデ	明橙色 明橙色	精良	良好	指數23
128	拡張部	土壤II2	--	14.7	3.4	外面オサ工後ナデ、内面ハケ後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	淡灰白色 明橙色	精良	良好	指數23
129	拡張部	土壤II2	下層	13.5 (復元)	3.1	内外面オサ工後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	明橙色 明橙色	やや 粗い	良好	指數23
130	16区	土壤II2	下層	15.2 (復元)	3.5	内外面オサ工後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	明橙色 淡橙色	やや 粗い	やや 不良	指數23
131	拡張部	土壤II2	--	14.4	3.3	内外面オサ工後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	明橙色 明橙色	やや	良好	指數23
132	拡張部	土壤II2	--	14.5 (復元)	3.3	外面オサ工後ナデ、内面ハケ後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	淡橙色 明橙色	やや 粗い	良好	指數23
133	16区	土壤II2	--	14.2 (復元)	3.2	外面オサ工後ナデ、内面ハケ後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	淡灰白色 淡灰白色	精良	良好	指數23
134	16区	土壤II2	下層	13.4 (復元)	3.0	内外面オサ工後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	明橙色 淡橙色	精良	良好	指數22
135	16区	土壤II2	--	14.3 (復元)	3.2	外面オサ工後ナデ、内面ハケ後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	明橙色 淡灰白色	精良	良好	指數22
136	拡張部	土壤II2	--	13.6 (復元)	3.0	外面オサ工後ナデ、内面ハケ後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	淡灰白色 淡橙色	やや 粗い	良好	指數22
137	16区	土壤II2	下層	14.2 (復元)	3.1	外面オサ工後ナデ、内面ハケ後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	明橙色 明橙色	精良	良好	指數22
138	拡張部	土壤II2	下層	14.7	3.2	内外面オサ工後ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 外面上に化粧土	明橙色 淡橙色	精良	良好	指數22
139	16区	土壤II2	中層	14.7 (復元)	3.2	外面オサ工後ナデ、内面ハケ後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	明橙色 明橙色	精良	良好	指數22
140	16区	土壤II2	--	13.4	2.9	内外面オサ工後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	淡橙色 淡橙色	やや 粗い	良好	指數22
141	拡張部	土壤II2	中層	14.8 (復元)	3.2	内外面オサ工後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	淡橙色 淡橙色	精良	良好	指數22
142	16区	土壤II2	上層	14.8 (復元)	3.2	外面オサ工後ナデ、内面調整不明 口縁部内外面ヨコナデ	明橙色 明橙色	やや 粗い	良好	指數22
143	拡張部	土壤II2	--	13.4 (復元)	2.9	内外面オサ工後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	淡橙色 明橙色	精良	良好	指數22
144	16区	土壤II2	上層	14.0 (復元)	3.4	外面オサ工後ナデ、内面調整不明 口縁部内外面ヨコナデ	明橙色 明橙色	やや 粗い	良好	指數21
145	16区	土壤II2	中層	12.8 (復元)	2.7	外面オサ工後ナデ、内面調整不明 口縁部内外面ヨコナデ	明橙色 明橙色	やや 粗い	やや 不良	指數21 黒道有

土師器・杯 A

番号	地区	遺構	層位	法量(㎤)		技術上の特徴	色調(例) 例	胎土	焼成	備考
				口径	幕高					
146	拡張部	土壤112	—	14.7	3.0	内外面オサニ後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	明橙色 淡橙色	精良	良好	指数20
147	16区	土壤112	上層 (復元)	14.2	2.8	内外面オサ工後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	淡灰白色 淡灰色	精良	良好	指数20
148	拡張部	土壤112	—	14.4 (復元)	2.7	外面オサ工後ナデ、内面ハケ後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	淡橙色 明橙色	精良	良好	指数19
149	16区	土壤112	中層 (復元)	14.6	2.7	外面オサ工後ナデ、内面ハケ後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	明橙色 淡橙色	精良	良好	指数19
150	16区	土壤112	上層 (復元)	14.1	2.6	外面オサ工後ナデ、内面調整不明 口縁部内外面ヨコナデ	明橙色 淡橙色	精良	良好	指数18
151	14区	土壤105	—	13.4	4.3	内外面オサ工後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	明橙色 淡橙色	やや 粗い	良好	指数32 黒斑有
152	14区	土壤105	—	14.6 (復元)	3.7	内外面オサ工後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	淡橙色 明橙色	やや 粗い	良好	指数25
153	14区	土壤105	—	13.8	3.4	内外面オサ工後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	明橙色 明橙色	精良	良好	指数25 黒斑有
154	14区	土壤105	—	14.0 (復元)	3.3	内外面オサ工後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	明橙色 明橙色	精良	やや 不良	指数24
155	14区	土壤105	—	13.6 (復元)	2.9	内外面オサ工後ナデ、口縁部内外面ヨコナデ、外側に化粧土	明橙色 淡橙色	精良	良好	指数21
156	拡張部	Pit220	—	14.1	3.3	内外面オサ工後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	淡橙色 淡橙色	精良	良好	指数23
157	10区	暗褐色粘質上層	—	13.8	3.8	内外面オサ工後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	明橙色 明橙色	やや 粗い	良好	指数28
158	10区	暗茶褐色砂層	—	14.0	2.9	外面オサ工後ナデ、内面ハケ後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	淡橙色 明橙色	やや 粗い	良好	指数21

土師器・III A

番号	地区	遺構	層位	法量(㎤)		技法上の特徴	色調(%) (%)	胎土	焼成	備考
				口径	器高					
161	10区	灰原	—	14.7	2.7	外面オサエ後ナデ、内面ハケ後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	淡灰白色 淡橙色	精良	良好	指數19
162	10区	灰原	下層	13.9	2.4	内外面オサエ後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	淡橙色 淡橙色	精良	良好	指數17
163	10区	灰原	—	12.9 (復元)	2.2	内外面オサエ後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	淡橙色 明橙色	精良	良好	指數17
164	10区	灰原	下層	14.8 (復元)	2.5	外面オサエ後ナデ、内面ハケ後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	淡橙色 淡橙色	精良	良好	指數17
165	10区	灰原	下層	15.3	2.5	外面オサエ後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	淡灰白色 淡橙色	精良	良好	指數16
166	10区	灰原	上層	16.0 (復元)	2.5	外面オサエ後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	淡橙色 明橙色	精良	良好	指數16
167	10区	灰原	下層	13.9	2.1	外面オサエ後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	淡橙色 淡灰白色	精良	良好	指數15
168	10区	灰原	下層	14.4	2.1	外面オサエ後ナデ、内面ハケ後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	明橙色 淡橙色	精良	良好	指數15
169	10区	灰原	下層	13.5	1.8	外面オサエ後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	明橙色 淡橙色	精良	良好	指數13
170	拡張部	土壤112	—	13.5 (復元)	2.6	外面オサエ後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	明橙色 明橙色	精良	良好	指數19
171	拡張部	土壤112	中層	13.8 (復元)	2.5	外面オサエ後ナデ、内面ハケ後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	明橙色 淡橙色	精良	良好	指數18
172	16区	土壤112	上層	14.7	2.6	外面オサエ後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	明橙色 明橙色	精良	良好	指數18 黒斑有
173	16区	土壤112	中層	15.0	1.7	外面オサエ後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	明橙色 明橙色	精良	良好	指數11
174	拡張部	土壤112	中層	15.0 (復元)	1.7	外面オサエ後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	明橙色 明橙色	精良	良好	指數11
175	16区	土壤112	下層	13.0	1.2	外面オサエ後ナデ、内面ハケ後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	淡橙色 淡橙色	精良	良好	指數 9

土師器・その他の器種

番号	器種	地区 遺構 層位	法量(m)	技法上の特徴	色調 (外面) (内面)	胎土	焼成	備考
159	杯 B	10区 灰原 上層	口径15.1 器高 3.7 底径 7.3	内外面オサエ後ナデ 口縁部ヨコナデ	淡橙色 明橙色	精良	良好	指數25 黒斑有
160	杯 B	10区 溝119	口径15.0(復元) 器高 3.9 底径 7.3(復元)	内外面オサエ後ナデ 口縁部ヨコナデ 口縁部外面に化粧土	淡橙色 淡橙色	やや 粗い	良好	指數26
176	小皿	16区 土壙112 上層	口径11.2 器高 1.5 —	内外面オサエ後ナデ 口縁部ヨコナデ	淡灰白色 淡灰白色	精良	良好	指數13
177	甕	10区 灰原 上層	口径15.0(復元) 器高 6.0(残存) 腹径—	内外面オサエ後ナデ 口縁部ヨコナデ	淡赤橙色 淡赤橙色	やや 粗い	良好	
178	甕	10区 灰原 —	口径16.2(復元) 器高 5.0(残存) 腹径—	内外面オサエ後ナデ 口縁部ヨコナデ	淡赤橙色 淡橙色	精良	良好	
179	甕	10区 灰原 —	口径17.4(復元) 器高 4.3(残存) 腹径—	内外面オサエ後ナデ 口縁部ヨコナデ	淡赤褐色 淡赤褐色	精良	良好	
180	甕	16区 土壙112 —	口径18.0(復元) 器高 3.1(残存) 腹径—	内外面オサニ後ナデ 口縁部ヨコナデ	淡赤褐色 淡赤褐色	精良	良好	
181	甕	10区 — 暗褐色粘質土層	口径16.8(復元) 器高 8.7(残存) 腹径 19.7(復元)	外面調整不明、内面ナデ 口縁部外面ヨコナデ、口縁部内面ヘラ ケズリ後ヨコナデ	淡赤褐色 淡赤褐色	精良	良好	外面に 煤付着
182	甕	16区 上壙112 —	口径24.4(復元) 器高 6.2(残存) 腹径—	外面オサエ後ハケ 内面ナデ	淡橙色 淡橙色	やや 粗い	良好	
183	羽釜	埴部 土壙112 —	口径23.6(復元) 器高 7.1(残存) 鉢径 27.6(復元)	外面ハケ、内面ヘラケズリ 口縁部及び鉢部ヨコナデ	淡橙色 淡橙色	精良	良好	
184	鉢	14区 Pit160 —	口径— 器高 2.9(残存) 底径 10.8(復元)	内外面オサエ後ナデ 高台ヨコナデ	明橙色 明橙色	精良	良好	

須恵器

番号	器種	地区 遺構 層位	法量(cm)	技術上の特徴	色調 (外面) (内面)	胎土	焼成	備考
185	壺	14区 土壤105 ---	口径—— 器高11.2(残存) 底径16.4(復元)	体部内外面回転ナデ 底部内外面ナデ	灰色 灰色	精良	良好	
186	壺	10区 ---	口径 9.9(復元) 器高 6.5(残存) 底径——	口頸部内外面回転ナデ 肩部外面回転ヘラケズリ 体部内面回転ナデ	青灰色 青灰色	精良	良好	肩に メ字の ヘラ記 号
187	壺	10区 灰原 下層	口径15.8(復元) 器高 7.9(残存) 底径——	口頸部内外面回転ナデ	青灰色 青灰色	精良	良好	自然釉 がかかる
188	壺	北部 ---	口径15.8 器高 6.0(残存) 底径——	口頸部内外面回転ナデ	灰色 灰色	精良	やや 不良	
189	壺	10区 Pit199 ---	口径 5.6 器高13.1 底径 4.7	内外面回転ナデ 底部糸切り	灰色 灰色	精良	不良	
190	壺	10区 灰原 上層	口径—— 器高 2.3(残存) 底径 5.8	内外面回転ナデ 底部外面糸切り	灰白色 灰白色	精良	やや 不良	
191	甌	14区 落ち込み103	口径13.2(復元) 器高 3.0(残存) 底径——	内外面回転ナデ	暗灰色 暗灰色	精良	良好	
192	長脚 壺	16区 土壤112 上層	器高21.5(残存) 腹径19.2(復元)	外面格子目の印き 内面回転ナデ 外面上位に一条の凹線	青灰色 青灰色	精良	良好	
193	双耳 壺	15区 溝127 ---	口径—— 器高12.5(残存) 底径——	内外面回転ナデ 耳部はナデ 耳部上端に精土補充	暗灰色 暗灰色	精良	良好	自然釉 がかかる
194	甌	北部 ---	口径18.9(復元) 器高15.0(残存) 腹径——	外面格子目の印き 内面同心円文の印き 口頸部回転ナデ	暗灰色 暗灰色	精良	良好	
195	壺	拡張部 土壤112 下層	器高10.8(残存) 腹径16.0(復元) 底径 9.2(復元)	内外面回転ナデ 底部外面糸切り	青灰色 青灰色	精良	良好	
196	壺	16区 土壤112 下層	器高14.4(残存) 腹径—— 底径 9.6(復元)	内外面回転ナデ 底部外面糸切り	暗青灰色 暗青灰色	精良	良好	
197	甌	拡張部 土壤112 ---	器高 6.4(残存) 腹径—— 底径 7.8(復元)	内外面回転ナデ 底部外面糸切り	灰白色 灰白色	精良	良好	
198	壺	16区 土壤112 上層	器高 3.1(残存) 腹径—— 底径10.4(復元)	内外面回転ナデ 底部外面糸切り	灰白色 灰白色	精良	やや 不良	
199	壺	10区 灰原 上層	器高 6.2(残存) 腹径—— 底径 7.5(復元)	内外面回転ナデ 底部外面糸切り	灰白色 灰白色	精良	やや 不良	

縄袖陶器

番号	器種	地区 遺構 層位	法量(cm)	技法上の特徴	色調 (釉調) (胎土)	胎土	焼成	備考
200	輪花 碗	10区 灰原 下層	口径13.4 器高 4.4 底径 6.7	口縁部4ヶ所に輪花をつける 体部外面回転ヘラケズリ 底部糸切り後へラで削り込む 底外面以外全面施釉	淡黄緑色 暗灰色	精良	良好	硬質 蛇ノ目 高台
201	碗	10区 灰原 下層	口径14.0(復元) 器高 4.5(復元) 底径 6.8(復元)	体部外面回転ヘラケズリ 底部外面へラで削り込む 全面施釉	淡黄緑色 暗灰色	精良	良好	硬質 蛇ノ目 高台
202	棱碗	16区 土壤112 下層	口径13.8(復元) 器高 4.5 底径 6.8(復元)	体部外面回転ヘラケズリ 底部外面へラで削り込む 全面施釉	淡緑色 淡橙色	精良	良好	軟質 蛇ノ目 高台
203	碗	9区-16区 -- 暗褐色粘質土層	口径一一 器高 3.0(残存) 底径 7.5	内外面回転ナデ、底部内面に沈線、高 台内側に段、全面施釉、割れ目に粘土 補充、底部外面糸切り痕	濃緑色 青灰色	精良	良好	硬質 輪高台
204	耳皿	払張部 土壤112 下層	口径11.2(復元) 器高 3.1 底径 4.9	口縁部を内側に折り込む 底部外面糸切り 全面施釉	淡緑色 淡橙色	精良 不良	やや 不良	軟質 円盤高 台
205	小杯	10区 灰原 下層	口径 8.2(復元) 器高 4.0 底径 4.5(復元)	内外面回転ナデ 底外面以外全面施釉	淡黄緑色 暗灰色	精良	良好	硬質 平底
206	小皿	9区 -- 暗褐色粘質土層	口径11.7(復元) 器高 2.4 底径 6.9(復元)	内外面回転ナデ、高台接地面に凹み、 体部と高台の境に沈線、全面施釉、底 部外面糸切り痕	薄緑色 暗灰色	精良	良好	硬質 輪高台
207	皿	10区 -- 暗褐色粘質土層	口径15.0(復元) 器高 2.9 底径 7.1(復元)	体部外面回転ヘラケズリ 底部外面へラで削り込む 全面施釉	淡黄緑色 暗灰色	精良	良好	硬質 蛇ノ目 高台
208	皿	10区 灰原 上層	口径14.9(復元) 器高 3.2 底径 6.9(復元)	体部外面回転ヘラケズリ 底外面以外全面施釉	淡黄緑色 暗灰色	精良	良好	硬質 輪高台
209	底部 片	15区 -- 暗褐色粘質土層	口径一一 器高 1.2(残存) 底径 6.4(復元)	体部外面回転ヘラケズリ 底部外面へラで削り込む 全面施釉	灰黄緑色 暗灰色	精良	良好	硬質 蛇ノ目 高台
210	碗	15区 -- 暗褐色粘質土層	口径一一 器高 2.5(残存) 底径 7.3(復元)	体部外面回転ヘラケズリ 釉を施さず	(無釉) 灰色	精良	良好	硬質 輪高台

灰釉陶器

番号	器種	地区 遺構 層位	法量(=)	技法上の特徴	色調 (釉調) (胎土)	胎土	焼成	備考
211	瓶	10区 灰原 下層	口径 8.6(残存) 器高 4.9(復元) 底径 7.2	内外面回転ナデ 底部外面糸切り 外面向転を塗る	暗灰色 灰白色	精良	良好	
212	碗	16区 土壤112 下層	口径17.2(復元) 器高 3.3(残存) 底径 --	体部外面回転ヘラケズリ 内面回転ナデ 内外面に釉を塗る	暗灰色 灰白色	精良	良好	
213	碗	北部 -- 暗褐色粘質土層	口径 -- 器高 4.4(残存) 底径 8.3(復元)	体部外面回転ヘラケズリ 内面回転ナデ	暗灰緑色 灰白色	精良	良好	内面に 自然釉
214	碗	16区 土壤112 --	口径 -- 器高 2.6(残存) 底径 8.0(復元)	体部外面回転ヘラケズリ 内面回転ナデ 高台外側を面取りする	暗灰緑色 灰白色	精良	良好	
215	碗	14区 落ち込み101 下層	口径 -- 器高 1.5(残存) 底径 6.8(復元)	体部外面回転ヘラケズリ 内面回転ナデ 高台外側を面取りする	暗灰緑色 灰白色	精良	良好	
216	碗	14区 -- 暗褐色粘質土層	口径 -- 器高 2.0(残存) 底径 --	体部外面回転ヘラケズリ 内面回転ナデ	暗灰色 灰白色	精良	良好	
217	瓶の 頭部	15区16区 -- 灰褐色粘質土層	器高 3.0(残存) 頭部径 9.5(復元)	内面回転ナデ	暗灰緑色 灰白色	精良	良好	外面に 自然釉 かかる
218	長頸 瓶の 頭部	10区 灰原 下層	器高 3.3(残存) 頭部径 7.8(復元)	内面回転ナデ	暗灰緑色 灰白色	精良	良好	外面に 自然釉 かかる
219	手付 瓶	北部 -- 暗褐色粘質土層	器高 8.2(残存) 底径11.3(復元) 腹径15.3(復元)	体部外面回転ヘラケズリ 内面回転ナデ 体部上位に施釉	暗灰緑色 灰白色	精良	良好	
220	瓶の 口縁	鉢張部 Pit221. 222. 223	口径 -- 器高 -- 底径 --	内外面とも回転ナデ 内面に施釉	暗灰色 灰白色	精良	良好	外面に 自然釉 かかる
221	瓶の 底部	16区 土壤112 --	器高 3.3(残存) 底径 8.9(復元) 腹径 --	体部外面回転ヘラケズリ 内面回転ナデ	暗灰緑色 灰白色	精良	良好	外面に 自然釉 かかる
222	瓶の 底部	10区 灰原 上層	器高 3.4(残存) 底径16.7(復元) 腹径 --	体部外面回転ヘラケズリ 内面回転ナデ	灰緑色 灰白色	精良	良好	外面に 自然釉 かかる
223	短頸 壺	14区 灰原 上層	口径12.8(復元) 器高 8.0(残存) 底径 --	体部外面回転ヘラケズリ 口縁部及び体部内面回転ナデ	灰緑色 灰白色	精良	良好	外面に 自然釉 かかる

古墳時代・中世の遺物

番号	器種	地区 遺構 層位	法量(㌘)	技法上の特徴	色調 (外面) (内面)	胎土	焼成	備考
224	須恵器 杯蓋	6区 — 地山	口径12.0(復元) 器高 4.0(残存) 底径—	天井部外面3/5ほど回転ヘラケズ リ、他は回転ナデ	青灰色 青灰色	精良	良好	
225	須恵器 杯身	擁壁部分 — 黄灰褐色粘質土層	口径— 器高 3.7(残存) 底径—	底部外面の大部分が回転ヘラケズ リ、他は回転ナデ	灰色 灰色	精良	良好	
226	須恵器 杯身	7区 — 暗褐色粘質土層	口径— 器高 2.0(残存) 底径—	小片のため詳細不明 残存部分は回転ナデ	青灰色 灰色	精良	良好	
227	須恵器 甌	16区 土壤II2 —	口径— 器高 3.7(残存) 腹径 8.5(復元)	内外面回転ナデ、外面に2本の凹 線とその間に波状文を施す	暗灰色 暗灰色	精良	良好	
228	土師器 小皿	15区 土壤II2 —	口径 8.3 器高 1.4 底径—	内外面ナデ 口縁部内外面ヨコナデ	淡褐色 淡褐色	精良	良好	
229	青磁 碗	北部 — 灰茶褐色粘質土層	口径15.0(復元) 器高 5.6(残存) 底径—	外面回転ヘラケズリ 内面窓及び柳状工具による花文様、 施釉	暗灰綠色 (釉調) 灰色	精良	良好	
230	白磁 碗	北部 — —	口径— 器高 3.0(残存) 底径—	玉縁下に1条の沈線 施釉	暗灰色 (釉調) 灰色	精良	良好	
231	白磁 碗	II区 — 茶褐色粘質土層	口径— 器高 2.8(残存) 底径 6.4(復元)	外面回転ヘラケズリ 高台を窓で削り出す 内面と外面上半に施釉	灰黃色 (釉調) 灰色	精良	良好	釉の境 は褐色 を呈す
232	土師器 土甌	擁壁部分 — 暗褐色粘質土層	長さ 3.6 直径 0.9 重さ 2.6g	全面ナデ 径3~3.5mmの孔	淡褐色 淡褐色	精良	良好	黒斑有

瓦

番号	種類	地区 遺構 層位	法量(=)	技法上の特徴	色調	胎土	焼成	備考
236	丸瓦	14区 土壌105 ---	長さ11.7(残存) 幅 11.4(残存) 厚さ 2.2	凹面布目模、凸面オサエと板ナデ、凹面の側邊・端辺沿い及び側面をケズリ	黒灰色 黒灰色	やや 粗い	良好	
237	平瓦	16区 上層112 ---	長さ10.4(残存) 幅 5.9(残存) 厚さ 1.7	凹面布目模と板ナデ、凸面ナデ、凹面の側辺沿い及び側面をナデ	青灰色 青灰色	精良	良好	須恵質
238	丸瓦	10区 灰原 下層	長さ 6.2(残存) 幅 5.8(残存) 厚さ 2.1	凹面布目模 凸面及び側面ナデ	灰褐色 暗灰色	やや 粗い	不良	須恵質
239	平瓦	14区 土壌105 ---	長さ 5.2(残存) 幅 8.8(残存) 厚さ 2.5	凹面調整不明 凸面縁口の叩き 側面及び端面ナデ	灰白色 灰白色	精良	やや 不良	須恵質

石器

番号	種類	地区 遺構 層位	法量(=)	断面	特徴	備考
233	大型蛤刃 石斧	14区 ---	長さ 3.5(残存) 幅 6.1(残存) 厚さ 4.9(残存)	不整な円形	洞部の破片 全体を丁寧に研磨するが敲打痕残す	安山岩
234	砥石	10区 ---	長さ 6.9(残存) 幅 6.0(残存) 厚さ 3.6	長方形	おそらく長方形状のものである 各面に金属製品で突いた傷がある	凝灰岩
235	投擲	14区 ---	長径 4.5 中径 3.0 短径 2.9	不整な円形	平面は椭円形を保する	花崗質砂岩
236	用途不明 5 石製品	14区 落ち込み103 ---	長さ 3.4(残存) 幅 1.6 厚さ 0.5	不等辺六角形	上端部と下半を欠損 側面以外の各面に研磨痕 上端に直径 2 mm の孔を穿つ	泥岩

第6章 まとめ

今回調査を実施した神田東後遺跡は、市立西南地区公民館建設に伴う事前の発掘調査において発見された新しい遺跡である。

当遺跡は、調査結果から平安時代中頃の10世紀前半を中心とした集落の一部であることが判明した。

今回の調査で出土した遺物は、弥生時代から中世に至るもので、その中心は平安時代中頃のものであり、遺構についても同時期に比定することができ、特に灰原・土坑112から時期差のはとんどない遺物が多量に出土していることは注目に値する。

今回検出された溝・土坑・柱穴・井戸・落ち込み等の年代について、灰原・土坑112を中心にみてみると、出土の土器の様相は、平安京における左兵衛府 SD1・大阪府北部の高槻市大藏司遺跡土壤²に近似している。橋本久和氏は、その黒色土器編年試案において、左兵衛府 SD1・大藏司遺跡土壤²とも10世紀前半に位置付けられている。さらに、10世紀初めとされる高槻市郡家今城遺跡井戸8からは、黒色土器杯Aが出土しているが、本遺跡からはその出土は認められない。次いで10世紀中頃とされている高槻市郡家今城遺跡井戸5や「天慶七年」(953)と墨書きされた綠釉陶器が出土した平安京右京二条二坊 SX1では、新しい器種としての土師器小皿が出土しており、本遺跡においても土坑112の上層から1点のみであるが土師器小皿(176)が出土している。また、郡家今城遺跡井戸5出土の黒色土器杯Bは、器高指數30前後と37~38の2グループに分かれており、当遺跡の灰原上層からは器高指數34~36の黒色土器杯B(34~36)が出土している。

以上のことから、当遺跡の灰原・土坑112は10世紀の第2四半期を中心とした時期であると考えられ、灰原上層・土坑112上層は10世紀第3四半期にかかると推察される。土坑105についても、出土遺物の様相が土坑112下層の土器に近似しており、ほぼ同時期と考えられる。

また、他の遺構についても、出土遺物が細片あるいは少量であるため明確な時期は比定できないけれども、上記の遺構と同時期ないしはそれに近い時期と推定される。

次に当遺跡から出土している綠釉陶器・灰釉陶器は、一部を除いて黒色土器・土師器より古い時期のものであり、おそらく伝世品であろうと考えられる。

今回出土した土器の組成をみると、供膳具としては黒色上器杯B・土師器杯A・皿Aなどがある。煮沸具としては、土師器甕・羽釜などがある。貯蔵具としては、須恵器甕・壺などがある。しかし、調理具は、黒色土器の鉢II1点しかなく、須恵器の鉢はわずかな破片のみの出土である。これらのこととは、本遺跡の性格を知る上においても十分な検討を今後行って行く必要がある。

神田東後遺跡の存続期間については、今回出土した遺物から10世紀前半にはじまり、10世紀後半の綠釉陶器や灰釉陶器が出土していることから10世紀末近くまで存続し、この集落の最盛期は10世紀前半頃であったと考えられる。

今回発掘調査を実施した範囲は約860m²と狭く、集落全体像については不明であるが、南調査区では遺物・遺構をほとんど検出せず、北調査区において多くの遺物・遺構を検出したことから、遺跡(集落)は北及び北西に広がりをもつものと考えられる。

そして、一箇所でこの様にまとまりのある多量の黒色土器が出土し、良好な灰原が検出されたことは、黒色土器の研究、さらに古代末から中世にかけての生産と流通を研究する上において大きく寄与するものである。

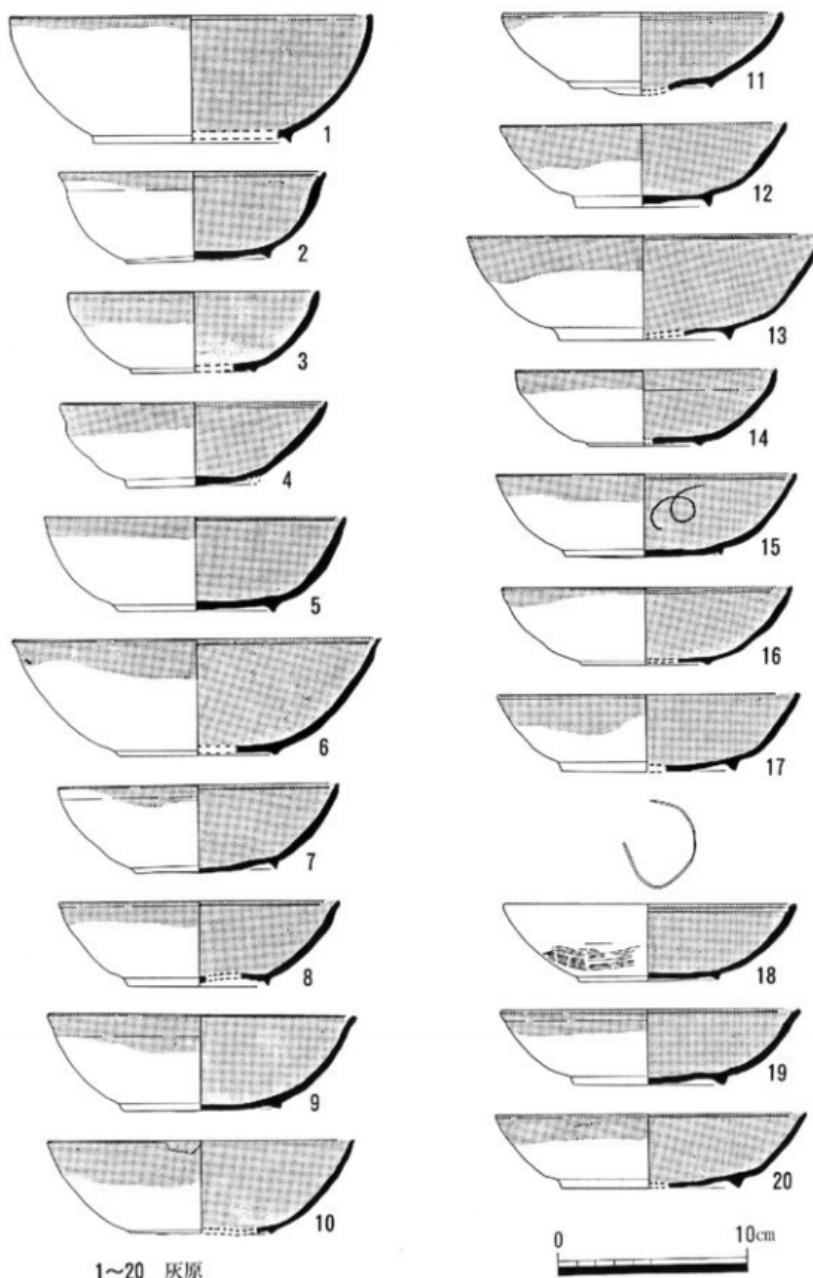
その他、弥生時代・古墳時代の遺物が数点出土していることは、この周辺にそれらの時代の遺跡が存在する可能性を示唆しており、今後の周辺調査の成果に期待したい。

神田東後遺跡の発見は、未解明な部分を多く残している本市西部地域の歴史と文化を解明する大きな手掛かりとなるものと考えられる。

註

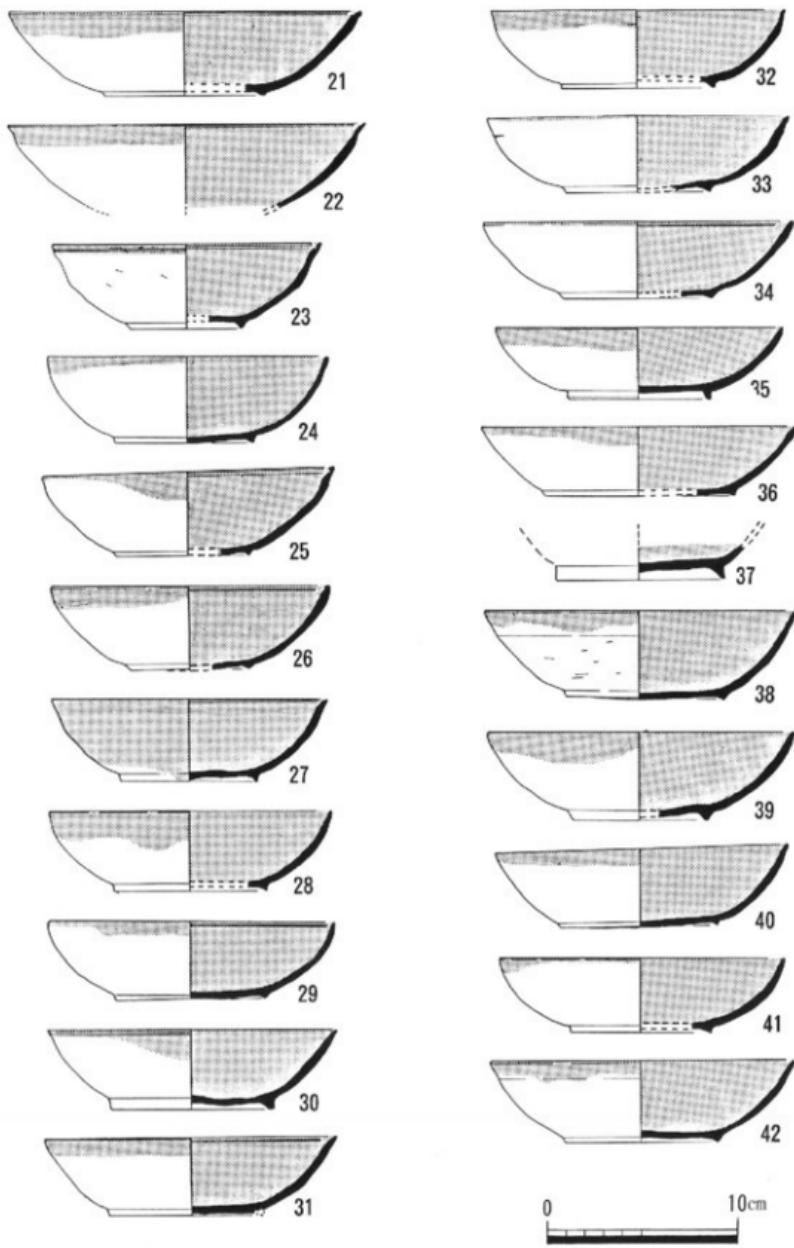
- (1) 平野政幸「平安京左兵衛府跡」『平安京発掘調査概報』1978
- (2) 橋本久和「畿内の黒色土器（1）」『中近世土器の基礎研究』Ⅱ 1986
高槻市郡家今城遺跡井戸5・井戸8も同様
- (3) 許（2）と同じ
- (4) 辻裕司「右京二条二坊（2）」『平安京発掘調査概報 昭和56年度』1982

図 版



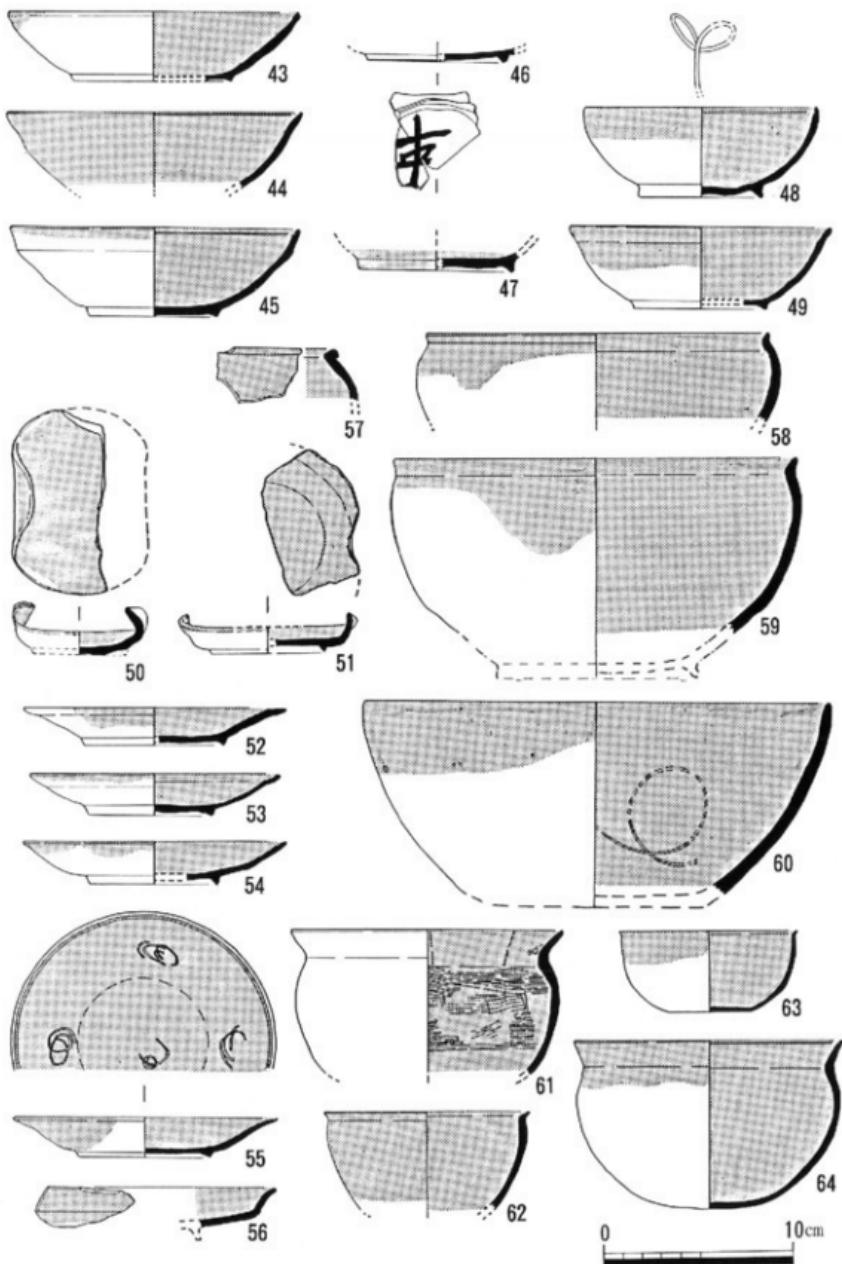
1~20 灰原

図版2 遺物実測図(黒色土器—杯B)



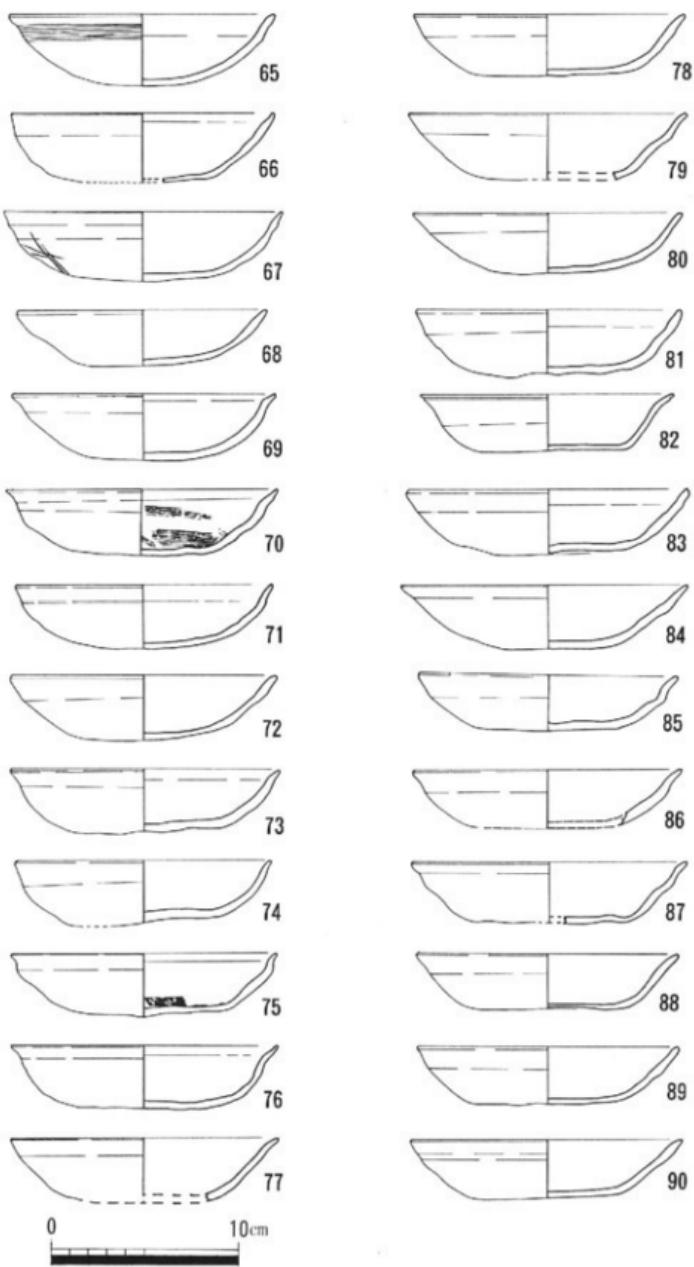
21~22 灰原、23~37 土塙 112、38~42 上塙 105

遺物実測図(黒色土器・杯B・椀・耳皿・皿・鉢・小鉢・甕)

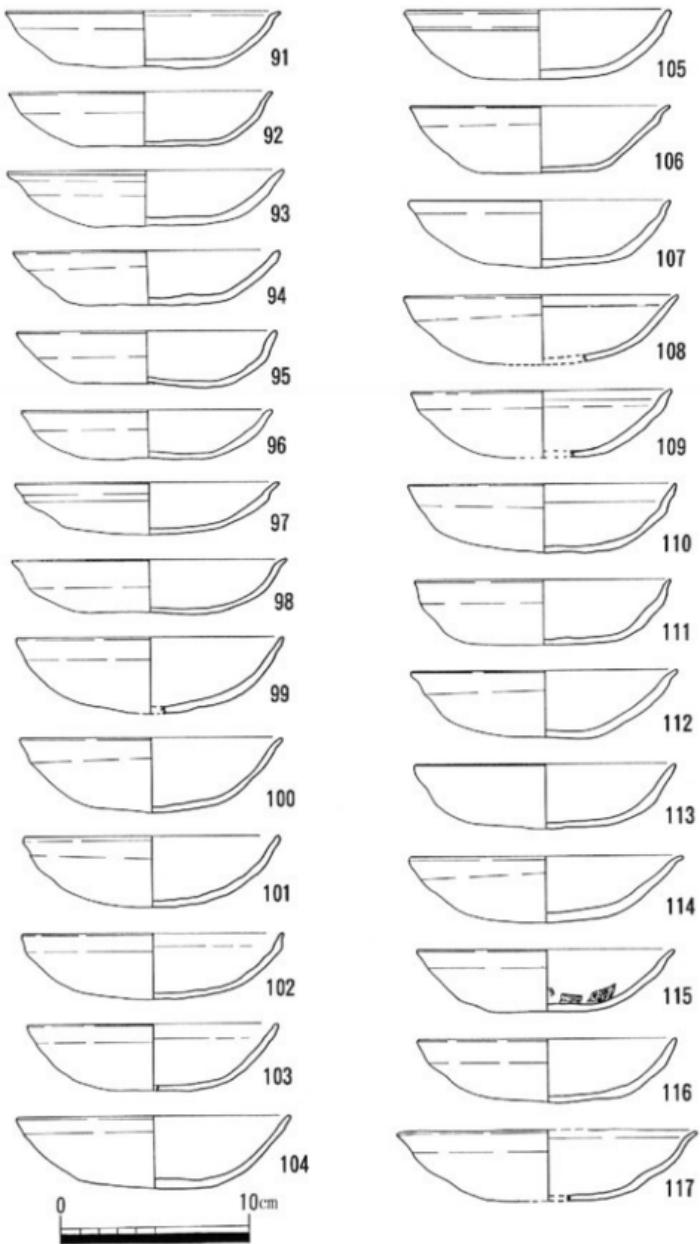


43-44 土塙 105、45 溝 110、46 井戸 1、48-49 溝 119

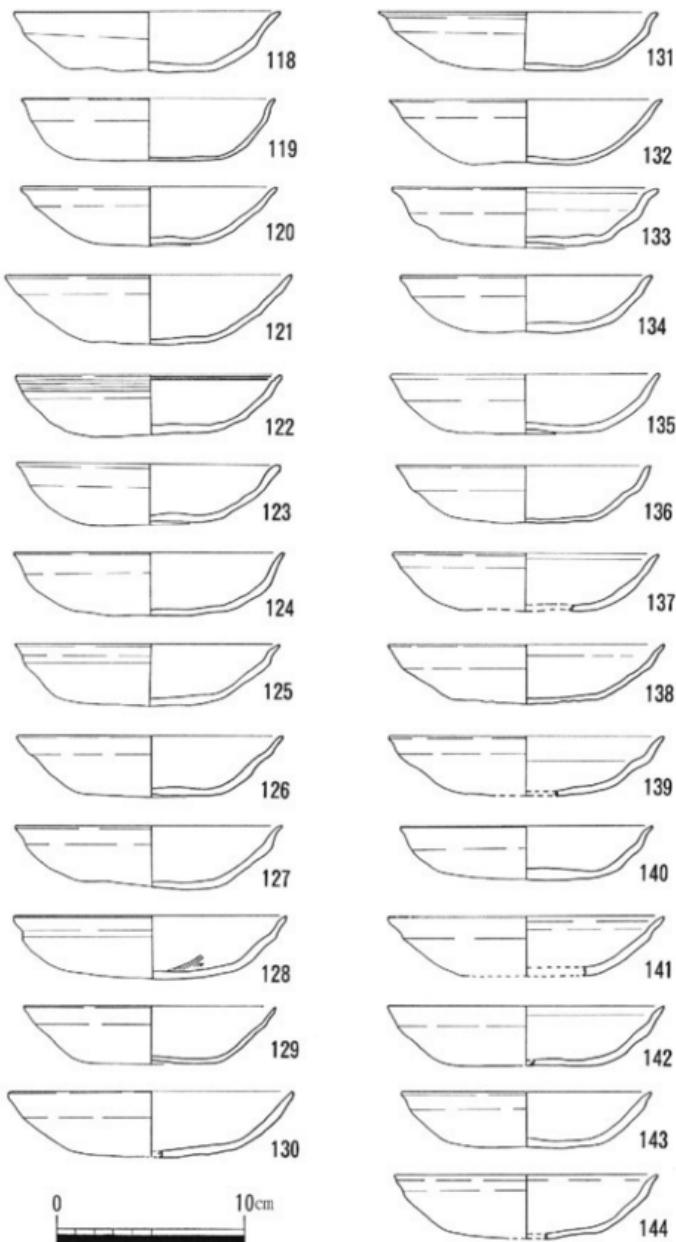
50-54・55-57-59-62-64 灰原、51-53-60-61-63 土塙 112、47-56 包含層



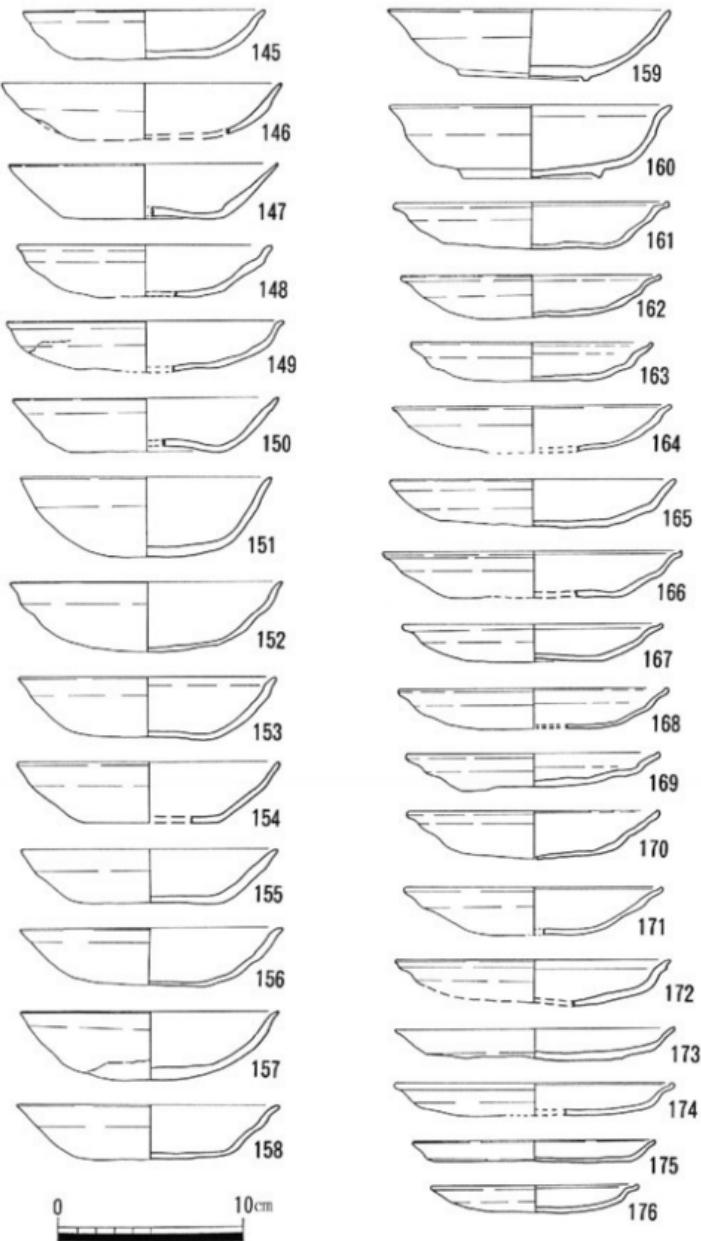
65~90 灰原



91~99 灰原、100~117 土塙 112

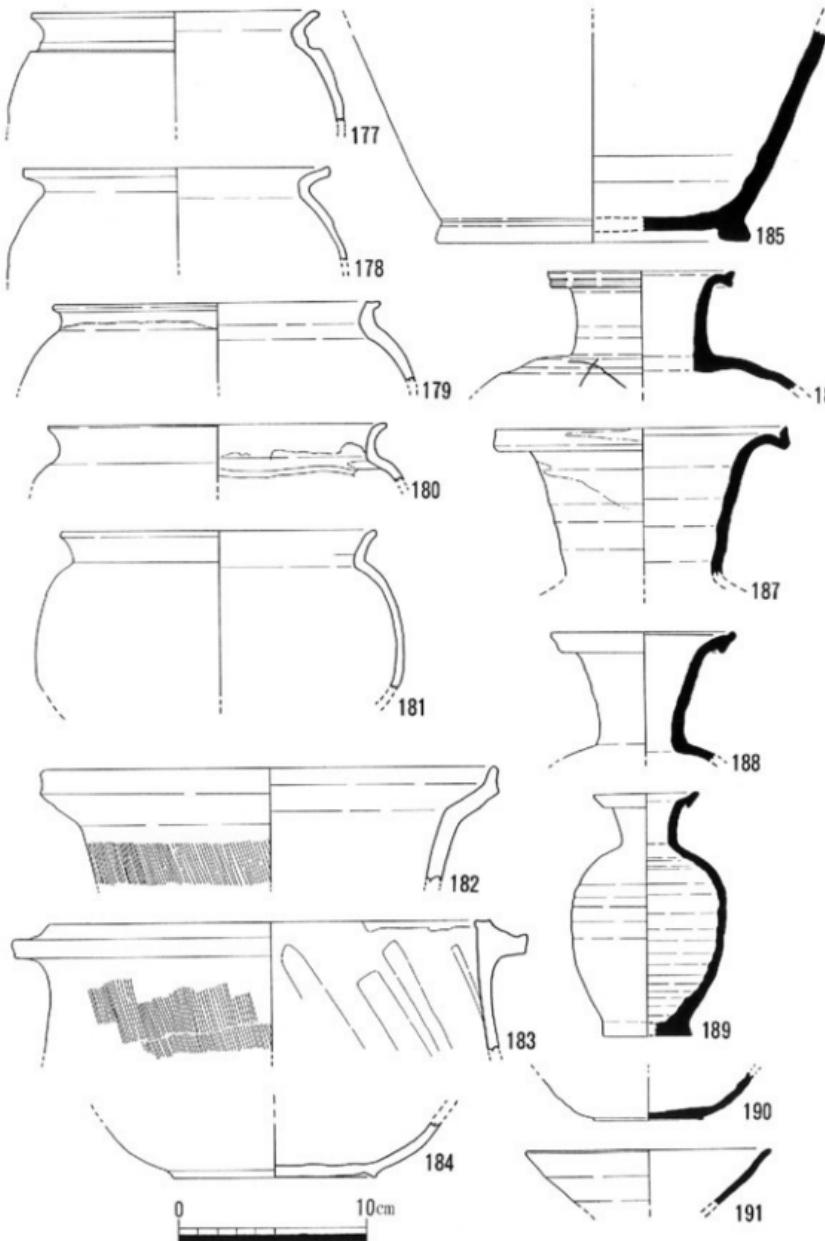


118~144 土塗 112

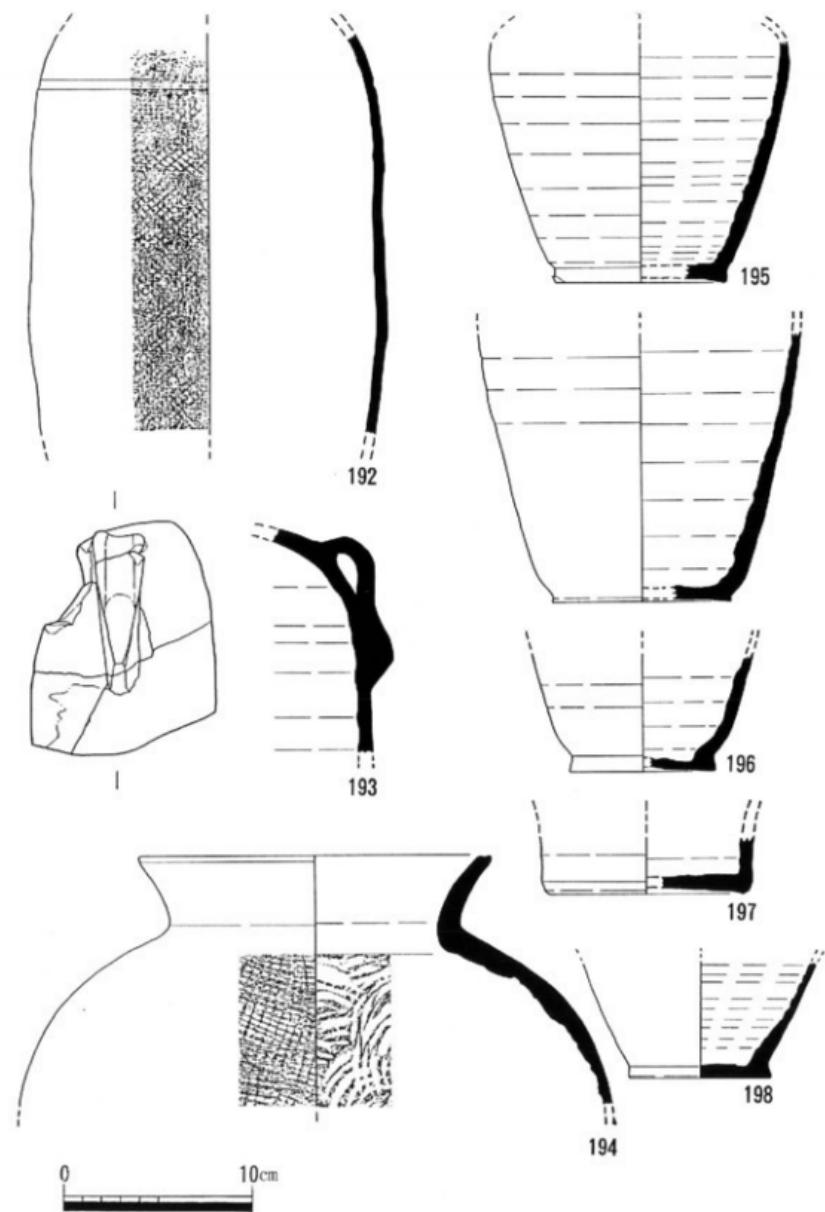


145~150 土塙 112、151~155 土塙 105、156 pit-220 157·158 包含層
159·161~169 灰原 160 溝 119、170~176 土塙 112

図版 8 遺物実測図(土師器—壺・羽釜・鉢・須恵器—壺・椀)

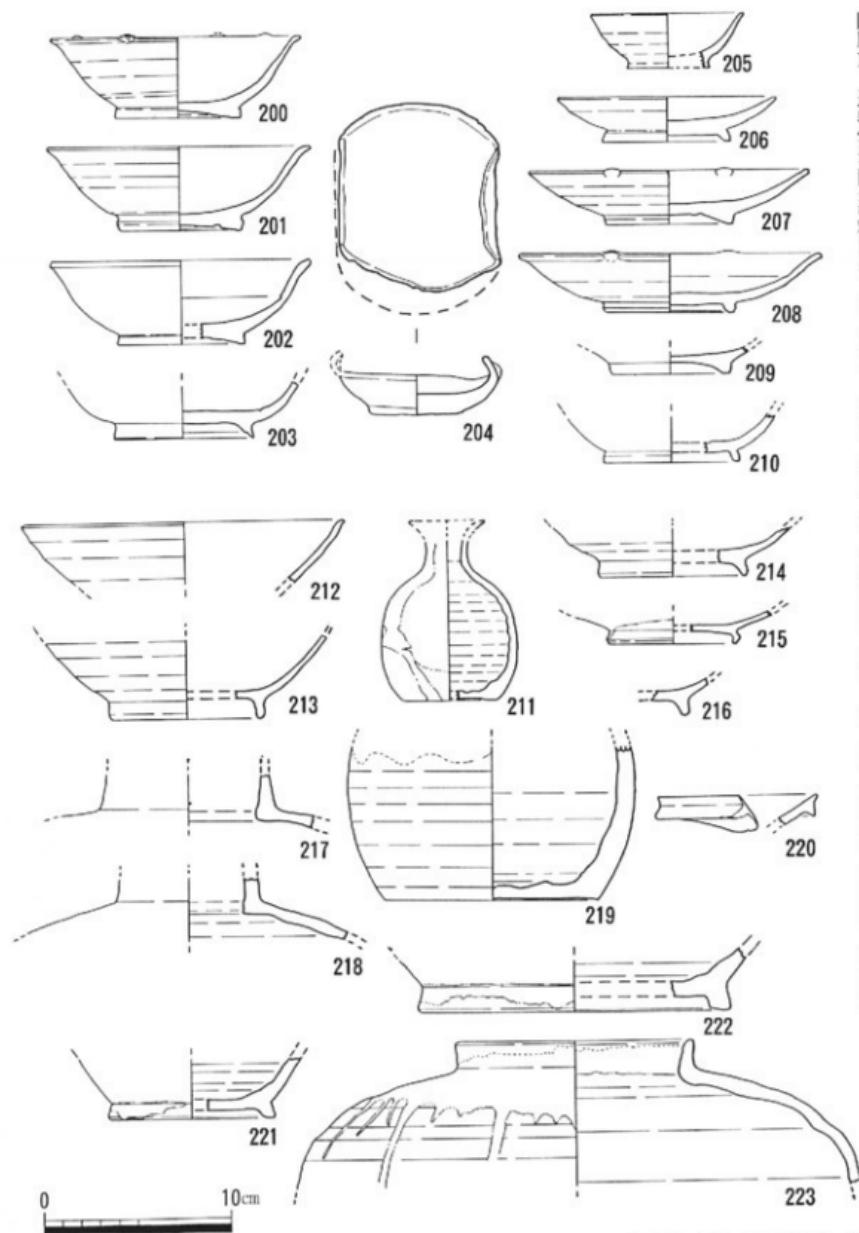


177~179・187~190 灰原、180~182・183 土塙 112、184 pit—160 185 土塙 105
189 pit—199~191 落ち込み 103、181~186・188 包含層



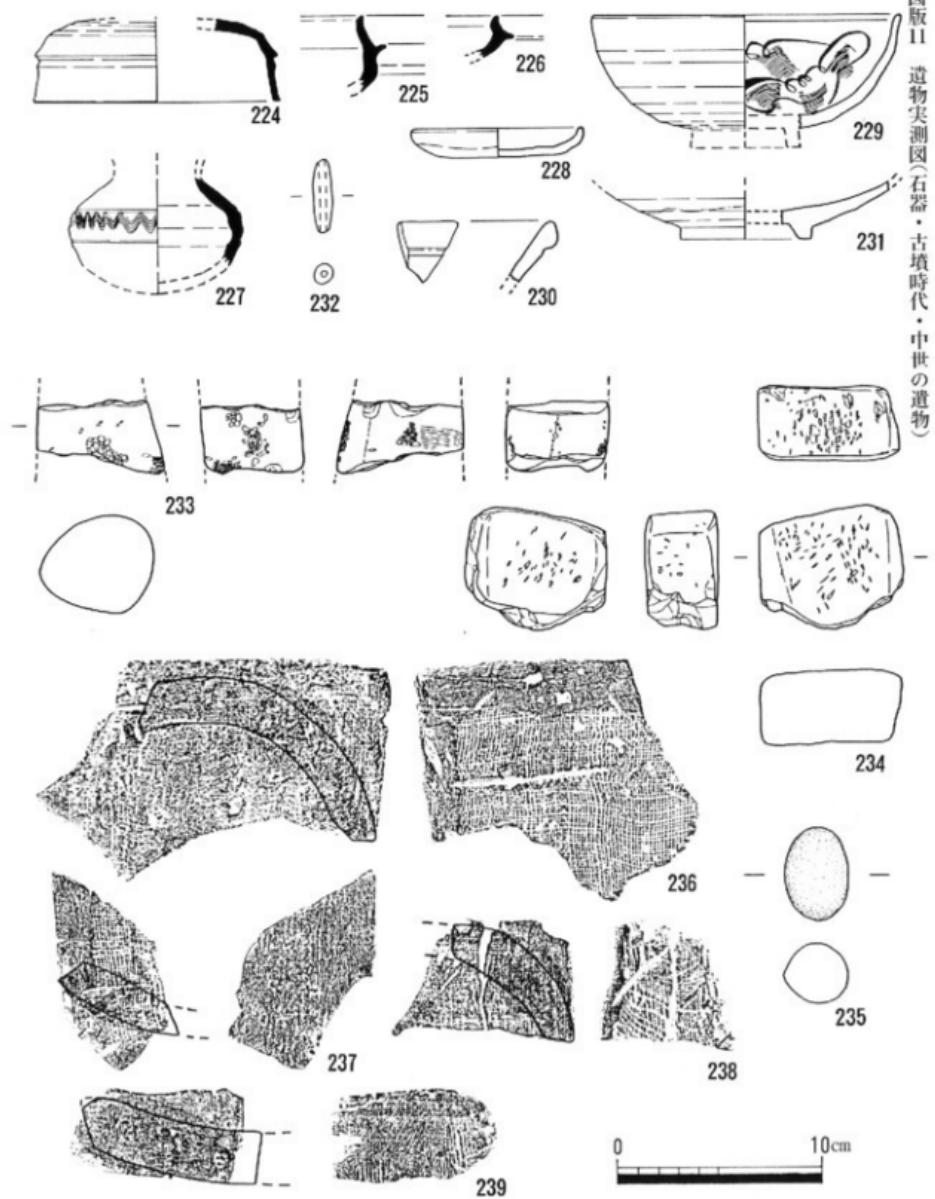
192・195~198 土壙 112、199 灰原、193 溝 127、194 包含層

遺物実測図(縄釉陶器—椀・耳皿・小杯・小皿・皿・灰釉陶器—瓶子・椀・瓶・長頸瓶・手付瓶・短頸壺)



200・201・205・208・211・218・222・223 灰原、202・204・212・214・221 土塙 112、215 落ち込み 101
220 pit—221～3・203・206・207・209・210・213・216・217・219 包含層

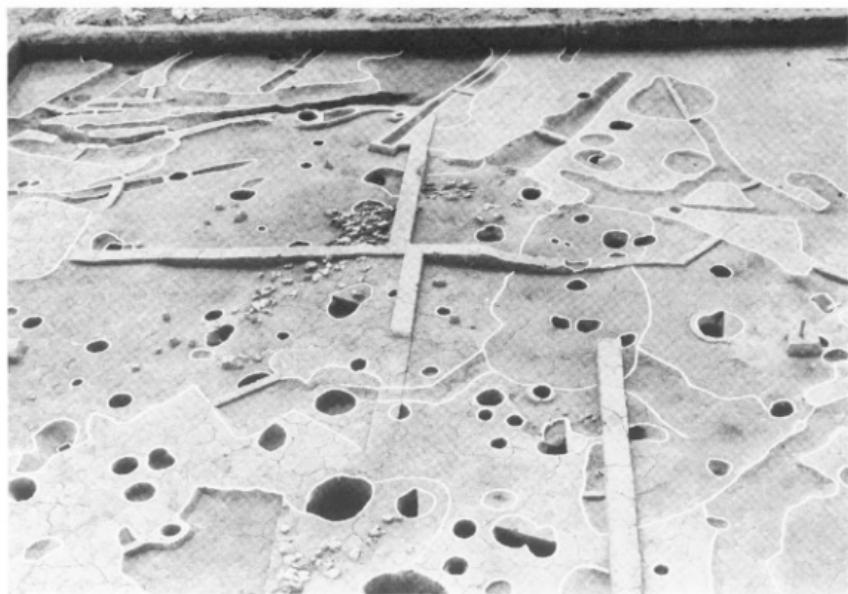
図版11 遺物実測図(石器・古墳時代・中世の遺物)



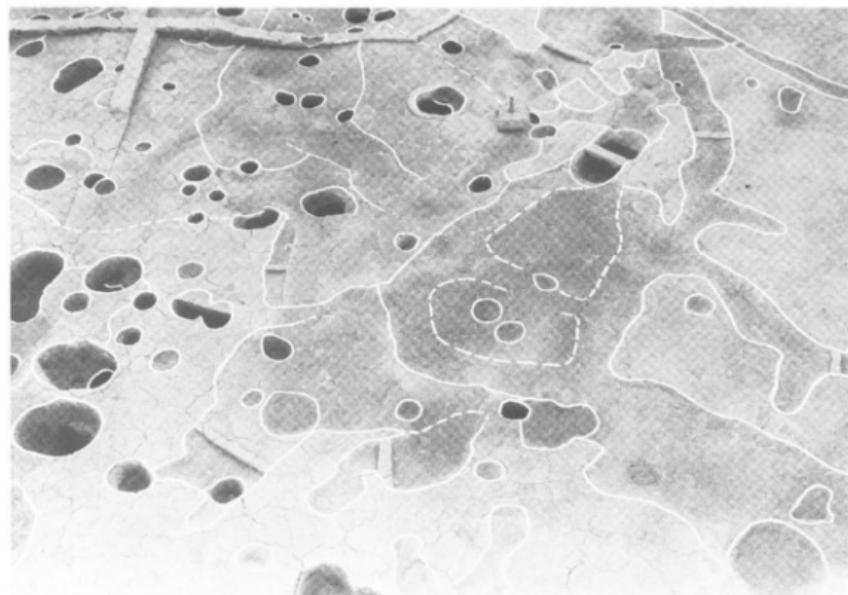
238 灰原、227・237 土塙 112、236・239 土塙 105

224～226・228～235 包含層





灰原(北より)



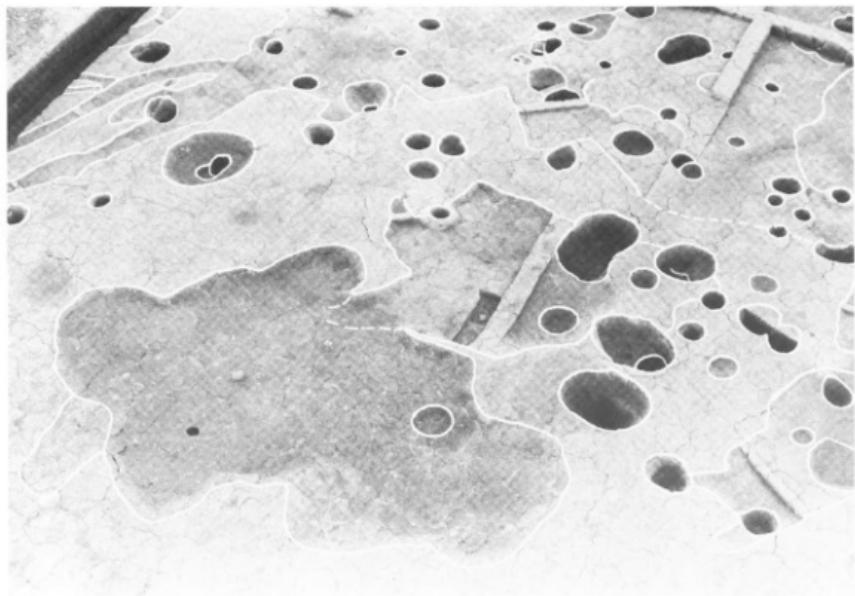
灰原西側(北より)



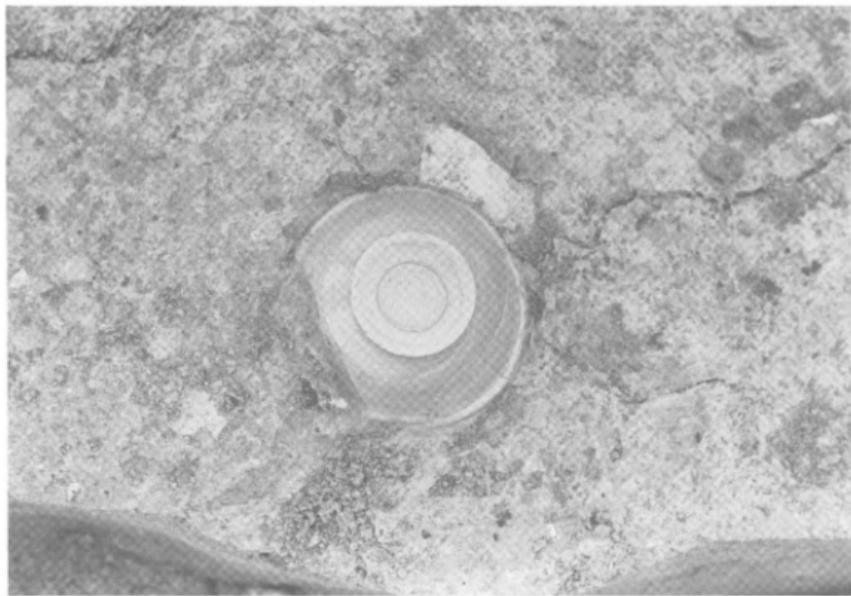
灰原遺物出土状況(東より)



灰原遺物出土状況(東より)



土坑検出状況(北より)



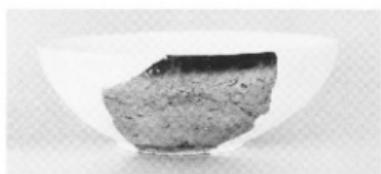
綠釉陶器出土状況



土坑112



柱根



1



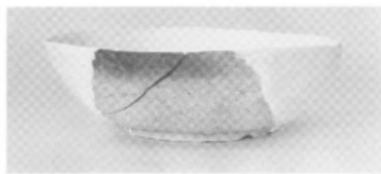
2



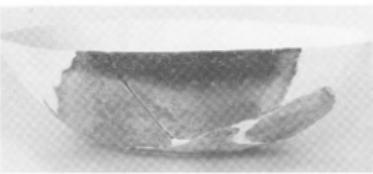
3



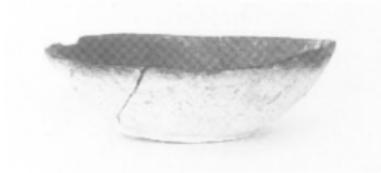
4



5



6



7



8



9



10



11



12

図版 18
黒色土器(杯B)



13



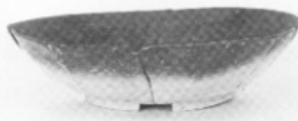
14



15



16



17



18



19



20



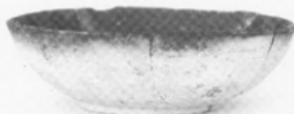
21



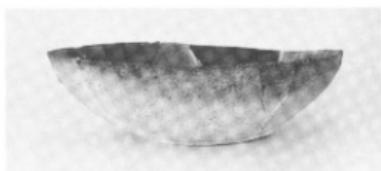
22



23



24



25



26



27



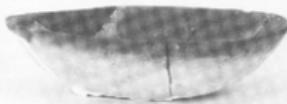
28



29



30



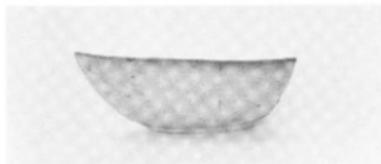
31



32



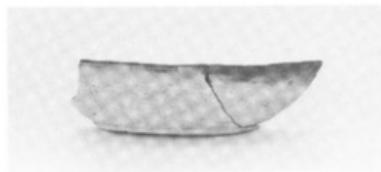
33



34



35



36



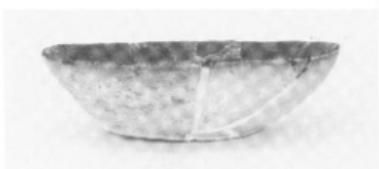
37



38



39



40



41



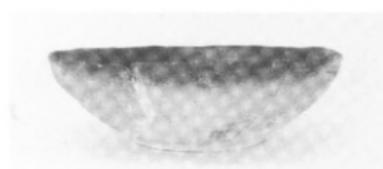
42



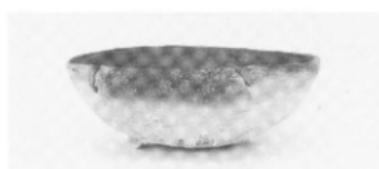
43



44



45



46



49



46



50'



51'



50



51



52



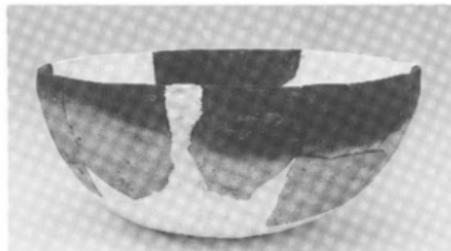
53



54



55



60

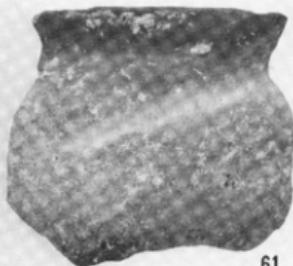
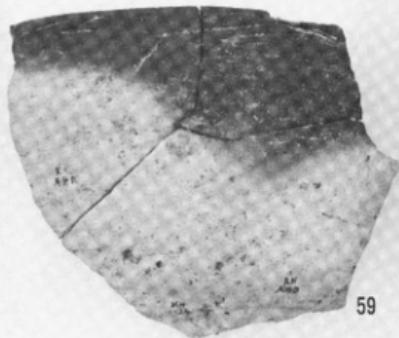
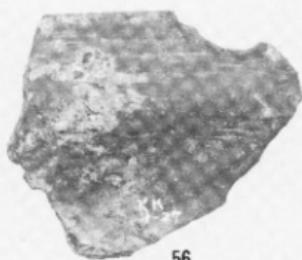
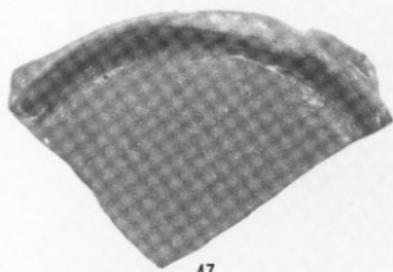


63



64

圖版22 黑色土器(椀・皿・鉢・甕・小鉢)





65



66



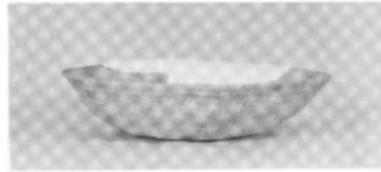
67



68



69



70



71



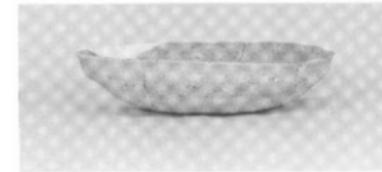
72



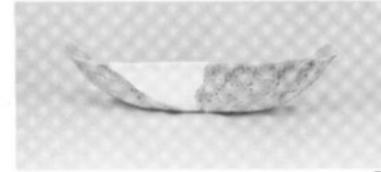
73



74



75



76



77



78A



79



80



81



82



83



84



85



86



87



88



89



90



91



92



93



94



95



96



97



98



99



100





113



114



115



116



117



118



119



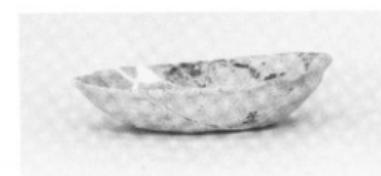
120



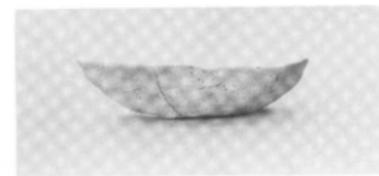
121



122



123



124



125



126



127



128



129



130



131



132



133



134



135



136



137



138



139



140



141



142



143



144



145



146

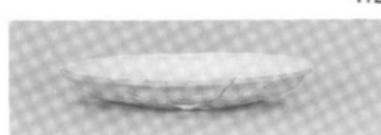
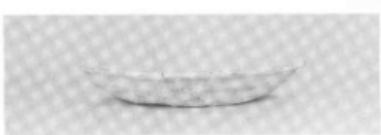
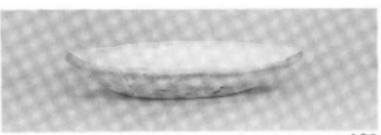
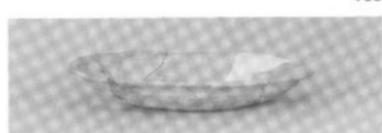
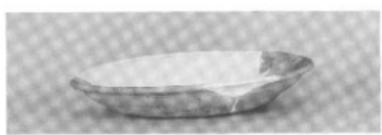


147



148







177



178



179



180



181



182



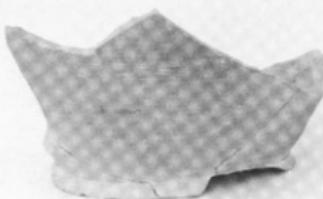
183



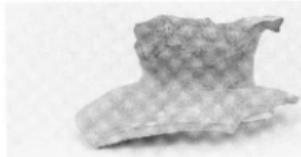
184



228



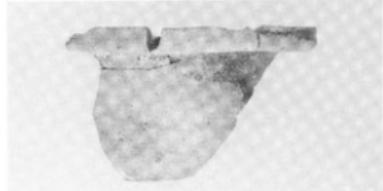
185



186



224



187



188



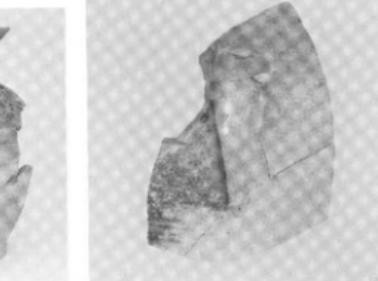
190



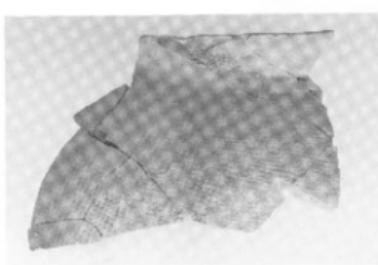
191



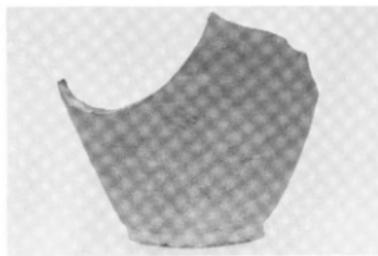
192



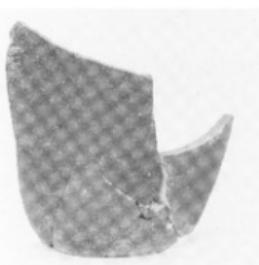
193



194



195



196



197



198



199



200



202



203



204



206



207



208



210



211



213



214



215



221



223



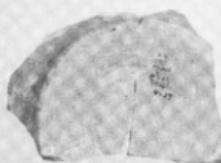
219



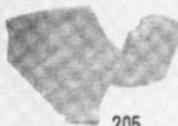
222



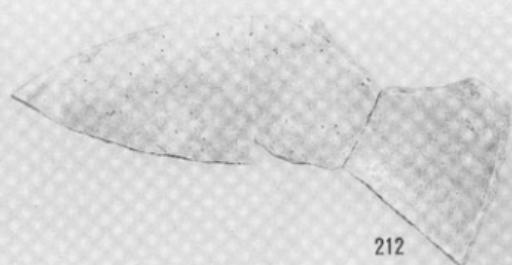
201



209



205



212



218



216



220



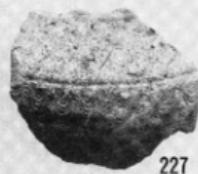
217



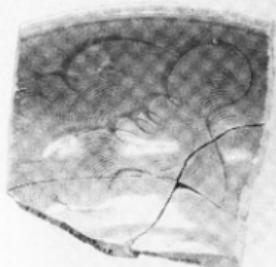
225



226



227



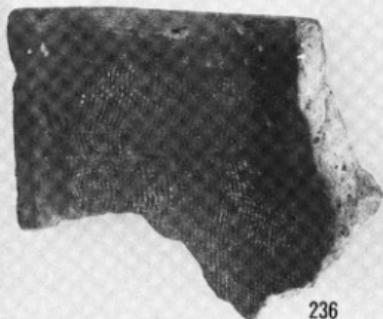
229



230



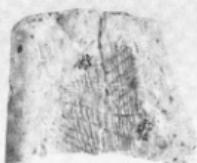
231



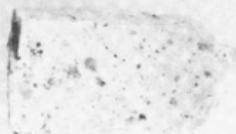
236



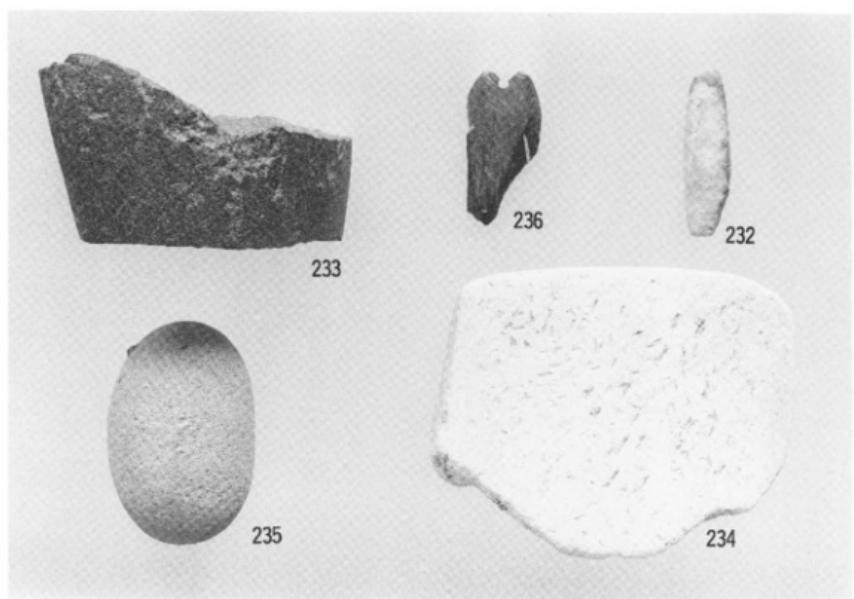
237



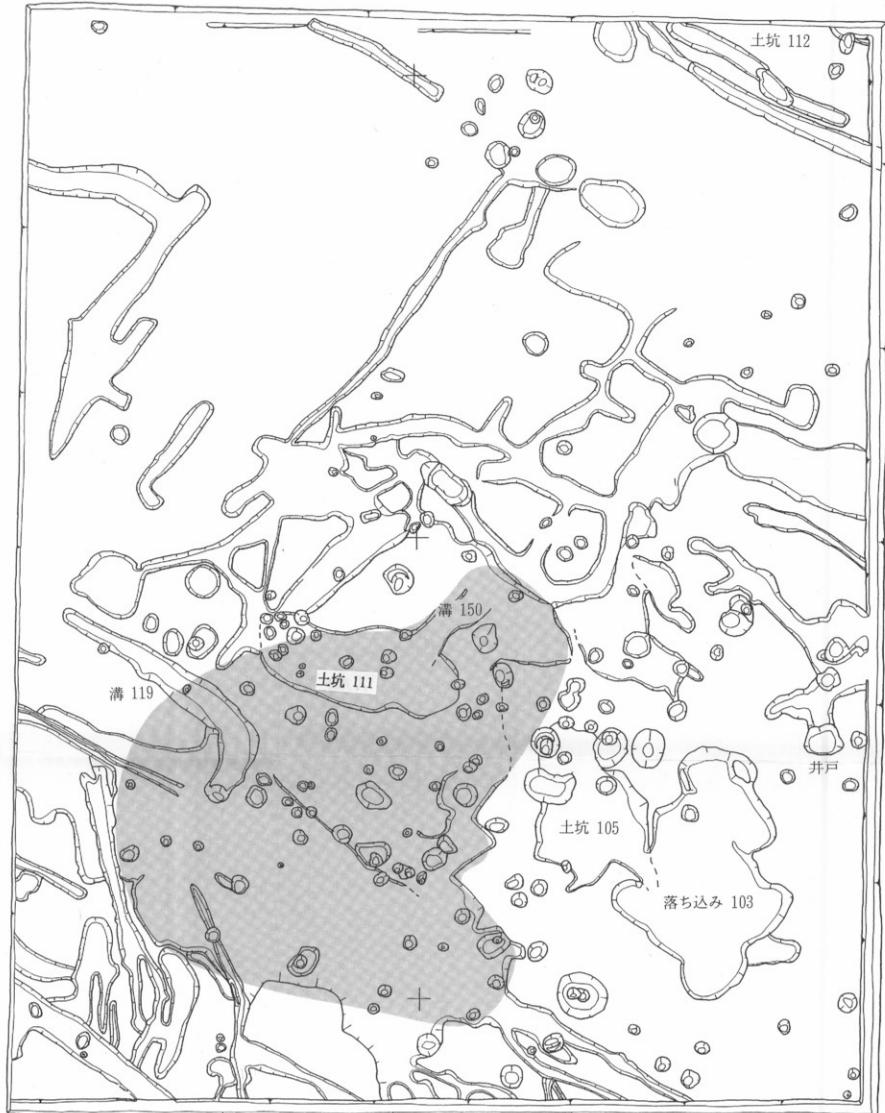
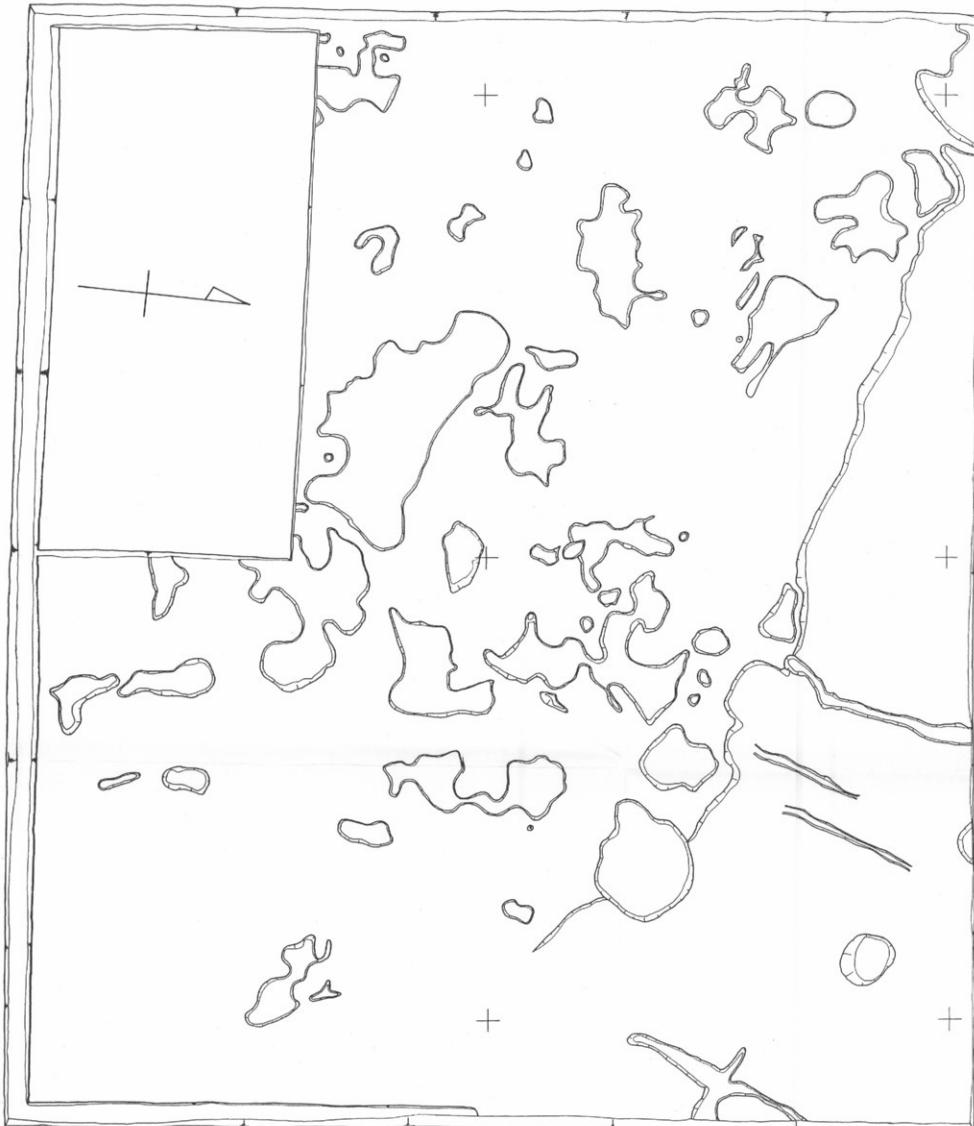
238



239



神田東後遺跡遺構平面図



■ 灰原の範囲

0 10m

神田東後遺跡

—寝屋川市立西南地区公民館建設に伴う発掘調査概要報告—

平成元年3月

編集 寝屋川市教育委員会
発行 大阪府寝屋川市本町1番1号

印刷 サツキ印刷株式会社

